

リ右ノ理由ナルヲ以テ千八百五十六年ノ法律
ノ説明ハ論理ニ合ハサルモノト謂フベシ
拋棄和約書中ニハ亡産人ハ通常和約書中ニ於
ケル如ク分付金ヲ拂フヲ約セスト雖モ普通
法ノ主義拿破倫法典第千八百八十四條ニ準シテ
之ヲ解除スルヲアルベシ譬ヘバ拋棄財産中ニ
負債人カ全ク自分ニ附屬セシモノトシテ誠實
ト詐偽トニ拘ラス拋棄セシモ其實ハ他人ノ所
有ニ係リ若クハ自分ハ唯其利益ヲ有スルニ止
マルノ不動産アラシニ吾輩ノ考ヘニハ此場合

ニ於テハ解除ノ理由アルベシ
又或ル論者ハ注目セシメタリ解除ノ理由ハ法
律ニ於テ拋棄和約ヲ以テ通常和約ニ同視セサ
ルヲ要シタルベシト其説ニ曰ク拋棄和約ノ場
合ニ在テハ亡産人ハ其負債ノ虚數ヲ張ラシヨ
リハ寧口之ヲ隱匿スルヲ以テ已レノ利益トセ
リ
其事由何如ニ拘ラス既ニ此場合ヲ生出シ負債
人カ其債主中ノ一人ヲ忘却又ハ隱匿セシナレ
ハ此忘却又ハ隱匿ノ故ヲ以テ和約ノ無効ヲ宣

告セシムルヲ許シ得ザルベシ

拋棄和約ハ連合ニ異ナリ蓋シ連合ハ亡産人ヲ
シテ債主ノ追糾ニ逢フニ任カスト雖モ拋棄和
約ハ之ニ反シ負債人ニ契約ノ自由ヲ付シ商務
ノ自由ヲ與ヘ且ツ將來ニ於テモ全ク之ニ自由
ヲ付セリ

註○身體拘留ヲ拋棄セシ千八百六十七年七
月二十二日ノ法律ヲ設立セサル以前ニ於テ
モ拋棄和約ヲ為セシキハ最早亡産人ニ別ニ
宥免ノ裁判申渡ヲ為スニ及ハサリキ

拋棄和約ヲ為ス場合ニ在テハ負債人ハ依然拋
棄セシ財産ノ所有主タリ所有權ヲ債主ニ轉付
スルニ非ス蓋シ債主ハ唯貸高ヲ取立テ之ヲ債
主ニ分付スルニ止マルノミ

千八百五十六年七月十七日ノ法律ヲ布告セサ
ル以前ハ登記役所ニ於テ此拋棄ヲ所有權ノ讓
與ト看做シ其不動産ノ價額ニ照シ證印税ノ外
ニ讓受税ヲ徵收セリ今日ニ在テハ和約ヨリ生
スル登記税ハ連合ヨリ生スルモノニ準據スル
モノトス是レ適理ト謂ツベシ千八百五十六年

七月十七日ノ法律第五條



第七章債主ノ種類及ヒ亡産ニ付テ債主
ノ有スル權利

第七章ハ亡産ノ場合ニ於テ債主ノ有スル權利
ヲ定ムルヲ以テ目的トナス蓋シ亡産ニ付テハ
亡産人ト連帶義務者トノ連署ノ證書ヲ有スル
モノアリ或ハ保證人ノ保證セシ證書ヲ有スル
モノアリ(第一款)動産ノ質物ヲ有スル債主及ヒ
動産ヲ以テ貸金ニ抵償セシムヘキ特權ヲ有ス
ル債主アリ(第二款)不動産ノ質物ヲ有スル債主
及ヒ不動産ニ對シテ先取特權ヲ有スル債主ア
リ(第三款)又亡産人ノ婦ニシテ其債主タルコト
アリ(第四款)○今逐次ニ此各種ノ問題ヲ辯論ス
ヘシ

第一款亡産人ノ連帶義務者及ヒ保證人
ノ事

第五百四十二條○亡産ヲ為ス可キ數人ノ連帶
負債者ノ署名セル證書ヲ有スル債主ハ(一)其亡
産人各名ノ財産分配ニ會シテ其證書ニ記スル
貸金ノ金額ヲ償ヒ終ル迄之ニ參加スルヲ得ヘ
シ(二)譬ハ百圓ノ債主アリ其連帶負債者四人

皆亡産ヲ為ス而テ四人ノ賤産ハ各自ノ負債ニ
付テ債額百分ノ二十五ヲ拂フヲ得ヘキモノト
ス然レハ百圓ノ債主ハ貸金ノ全額ヲ受クヘシ
何トナレハ各亡産人ニ對シ百圓ヲ要求シ得ル
ヲ以テ四人ヨリ各二十圓ヲ受レハナリ

註(一)例ハハ仁平ナル者一通ノ為替手形ヲ有
ス義助其署名人タリ禮太郎裏書人タリ智作
保証人タリ信藏仕拂承諾人タリ然ラハ皆連
帶義務者ナリ(商法第百四拾條及ヒ第百四拾
二條)○大審院ノ決議ニ第五百四拾二條ハ連

帶義務者中ノ一人亡産セシトキニ於テ實行
スヘキモノトセリ(千八百五十一年六月二十
四日訴訟局ノ決議)

註(二)唯ニ元金ノミナラス其利息并ニ特別ニ
要シタル入費ヲモ償ハシムルヲ得ヘシ但シ
亡産公告ノ為メ第百四拾五條ニ據リ利息
ヲ停止セラレタル後ハ之ヲ拂ハシムルヲ得
ナルナリ(千八百四十七年八月十八日訴訟局
ノ決議)

連帶證書ヲ有スル債主ヲ如何様ニ取扱フヘキ

ヤノ問題ハ裁判事例ニ於テ最モ著名ナル問題
ノ一タリ要スルニ三種ノ説アリテ互ニ主張者
多シ

第一説ニ曰債主ハ連帶義務者中一ノ亡産人ヲ
擇ヒ其賤産分配ニ參スルヲ得ヘシ然トモ一々
ヒ之ヲ擇ヒタル上ハ他ノ連帶義務者ノ賤産分
配中ニ參スルヲ得スト是レサヴァリノ氏ノ論々
リ（パレール書第十二卷及ヒ第四十八卷ヲ見ル
ヘシ

第二説ハ連帶義務者ノ證書ヲ有スル債主ハ逐
次ニ各亡産人ノ賤産分配ニ參加スルノ權ヲ有
スト雖モ其既ニ受取タル金高ヲ（ヒキサリ）扣除シ惟タ残
額ニ對シテ後ノ賤産分配ニ參スルヲ得ヘシ是
レホーチエー氏（コントラー、トレーター）書第百七十九
号其他著名ナル學士ノ維持セシ説ナリ

裁判事例ニ依ルニ此兩説共ニ不可ナルカ如シ
千八百七年ノ商法ニ於テハ其第五百三十四條
ニ債主ハ其貸金全額ノ辨償ヲ受ル迄ハ逐次ニ
各亡産人ノ賤産分配ニ參加シ得ルノ説ヲ用ヒ
タリ千八百三十八年ノ法律モ（商法第百四拾

二條亦此説ヲ用ヒタリ而テ立法者ハ疑議ヲ避
ル為メニ之ニ記シテ曰債主ハ其証書面ノ金額
ニ付テ各負債者ノ財産分配ニ參スルノ權ヲ有
スト即予カ前ニ述ヘタル如ク貸金ノ金額ニ向
テ辨償ヲ受クヘキ權利ヲ有スルナリ
此説ノ理由左ノ如シ抑債主ノ初ニ連帶義務者
ヲ要セシ所以ハ貸金金額ノ返辨ヲ確實ナラシ
ムルニ在リ故ニ連帶義務者各亡産セシ片ハ各
亡産ニ付テ貸金ノ金額ヲ要求セシムルノ法ハ
能ク債主ノ素志ヲ達セシムルヲ得ヘキ者ト謂
フヘシ若シ此債主ハ惟々第一亡産ニ付テノミ
全額ノ返辨ヲ請求シ得ルモノトシ第二ノ亡産
ニ付テハ第一ノ亡産ノ時受ケ得タル額又ハ受
ケ得ヘキト信スル額ヲ除算シテ其残額ノミヲ
請求シ得ルモノトナス片ハ(一)第二ノ亡産ニ付
テハ貸金ノ一部分ノ債主ト看做サル、譯ナリ
而テ第三ノ亡産第四ノ亡産ニ付テモ同前ナル
トキハ終ニ全額ノ返辨ヲ受ルコトナキノ結果
ヲ生スルニ至ルヘシ

註(一)例ハハ百圓ノ債主第一ノ亡産ニ二拾五

圓ヲ受クルトキハ第二ノ亡産ニハ七拾五圓ノ債主トナル

然レトモ數名ノ論者右ノ法律ノ成規ニ對シテ如此駁撃ヲ試ミタリ抑連帶証書ヲ有スル債主ニ各連帶人ノ亡産毎ニ其全額ノ債主タル權ヲ有セシムルハ不正ニシテ條理ニ適セス何トナレハ此百圓ノ債主已ニ分配金トシテ二拾五圓ヲ受取タル者ナレハ此額ヲ扣除シテ殘額即七拾五圓ノ債主タルニ然ルニ既ニ受取りシ分配金ニ拍ヲスシテ他ノ亡産ニ參加スルコトヲ

得ルトスル片ハ便々他ノ亡産ノ負債額ヲ增加スルノ不都合ヲ生セシムル者ト謂フヘシ

第五百四十三條○亡産ノ大體ノ主義タルヤ連帶義務者各亡産スルニ當リ其債主ニ返辨シタル分配金ニ付テハ相互ニ出訴ヲ為スヲ許サス譬ハ甲助ヨリ乙治丙蔵二人ニ金百圓ヲ貸渡シタリ此二人ハ即チ連帶負債者ニシテ共ニ亡産ニ係レリ然ルニ乙治ノ資金ハ一般ノ債主ニ對シテ百圓ニ付七拾五圓ノ割ヲ以テ償却スルヲ得丙蔵ノ資金ハ百圓ニ付二拾五圓ノ割ヲ以テ

償却スルヲ得ルモノトス因テ甲助ハ予カ上ニ
論ニタル如ク此二人ノ各自ノ亡産ニ對シテ貸
金ノ全額ヲ要求スルヲ以テ七拾五圓ト二拾五
圓トヲ請取り全ク損失ヲ蒙ルコトナシ負債者
タル乙治及ヒ丙蔵ハ普通法ノ連帶義務ノ至義
拿破倫法典第千二百十三條ニ據レハ百圓ノ半
額即チ五拾圓ノ負債ヲ各自ニ分擔ス可キモノ
トス何トナレハ法ノ明文ニ連帶義務タルヤ各
連帶者平分ニ之ヲ擔當シ各自其分配高ノミヲ
辨償スヘキ義務ヲ有ストアリ○故ニ若シ乙治
丙蔵共ニ亡産ヲ為サレハ百分ノ七拾五ヲ辨
償ニタル乙治ハ丙蔵トノ連帶ニ付テ五拾圓ヲ
負擔スヘキヲ七拾五圓辨償セシヲ以テ我負債
ヨリ二拾五圓ノ餘分ヲ辨償セリ乙治ハ其超過
セシ二拾五圓ヲ丙蔵ニ對シテ要求スルノ權利
ヲ有スル者トス然ルニ亡産ノ場合ニ在テハ之
レニ及シテ要求スルヲ得サルナリ
此說ヲ敷衍スル者アリ曰連帶義務者ノ中自己
ノ負擔ヨリ超過セル金額ヲ債主ニ返辨ニタル
者ヲシテ他ノ連帶義務者ノ亡産ニ對シ其過額

取戻ノ訴ヲ許ストキハ固ト兩人ニテ連帶義務ヲ負フタル貸借金ヲ第一亡産中ニ重複算入スルヲ得ルナリ何トナレハ甲助ノ貸金額ハ已ニ丙蔵ノ亡産中ニ算入シ一般ノ借金ト同一ノ割合ヲ以テ辨償ヲ受ケタリ故ニ若シ丙蔵ノ連帶義務者ナル乙治カ甲助ニ償却シタル過額ニ拾五圓ヲ以テ丙蔵ノ亡産中ニ加算スルトキハ一ノ借金を再ヒ一ツノ亡産ニ算入シ得ルナリ然ルニ他ノ債主ハ之ニ及ビテ惟タ一度ナラテハ亡産中ニ算入スルヲ得ヌ故ニ右等ノ訴ヲ許ストキハ如此不平均ヲ生スルノ恐レアルヘシ予ハ連帶證書ヲ有スル債主ハ各亡産人ノ資金ニ對シテ貸金ノ全部ヲ請求スルノ権アリ而テ亡産人ハ連帶義務者中ノ亡産ニ付テ債主ノ既ニ受取タル分配金高ヲ除算スルヲ得サルヲ見タリ如此各亡産ノ債主中ニ加ハルヲ得ルト雖モ其貸金ノ金額ヲ拂ハシムルニ止リテ額外ノ餘金を請取ルヲ得ナルハ勿論ナリトス此事ハ各亡産ニ對シテ金額ヲ算入スルヲ得ルニ依テ或ハ金額ニ超過スルヲナキニアラス譬ハ茲ニ

仁平ナル者百圓ノ為替手形ヲ有スルニ義助其署名人タリ禮太郎裏書人タリ智作保證人タリ信藏其仕拂ヲ承諾セリ然ルニ此四人ノ連帶負債者皆亡産ヲ為セリ其亡産ノ資金各百ニ付三十ノ割ヲ以テ負債ヲ弁償スルヲ得ルトキハ為替手形ヲ有スル仁平ハ百圓ヲ得ヘキ債主ニシテ百ニ拾圓ヲ受取ルヲ得ヘシ然レハ我貸金高ヨリハ二拾圓ノ餘分ヲ受ルナリ斯ノ如キ餘金ハ法律ニ於テ受取ルヲ許サズ而テ此過額ノ金ハ署名人中他人ノ為メニ保證

人タル者之ヲ受クヘキモノトス蓋シ保證ハ何レノ場合ニテモ本人ノ次ニ在レハナリ
法ニ曰此讓渡ハ契約ヲ為セシ順次ニ循テ為スヘシト此法文ハ大ニ論者ノ駁撃スル所ナリ其説ニ曰若シ契約ノ順序ニ循テ讓渡ヲ施行スルトキハ為替手形承諾人最後ノ契約ヲ為ス者ナレハ他ノ各裏書人ニ先キテ之ヲ受クルナルハニ然ルニ斯ノ如キ結果ハ理ニ於テ生セシムヘカラス何トナレハ為替手形ノ保証ニ関スル一般ノ主義ニ及シ又亡産ヲ為セシ連帶義務者若

シ結社人ナル片ハ契約ノ順次ヲ以テ讓渡ヲ為
スコトハ實際行ヒ得ヘカラサルヘシ蓋シ結社
人ナル者ハ總テ共通ノ條約ヲ以テ義務ヲ負ヒ
其條約ハ同日ヲ以テシ管理者一人ノ署名ヲ以
テ之ヲ為スニ止マレハナリ右ノ理由ニヨリ左
ノ如ク簡單ニ謂ハサルヲ得ス過額ハ連帶義務
者中ノ他ノ義務者ヲ以テ自己ノ保證ヲ為サシ
メシ者ニ讓渡サ、ルヲ得ス仍ホ略言スレハ契
約ノ順次ト性質トニ從フテ讓渡スヘシ

註 ○ブラヴァールド氏ノ 正キガマン、クリキツク、ド、エロア、シニル、レト、 法 評 論

第百二十八枚目ヲ見ルヘシ

第五百四十四條 ○亡産人ト他ノ義務者トノ連
帶証書ヲ有スル債主其亡産ノ時日前ニ連帶義
務者ヨリ貸金ノ幾分ヲ受取りタル片ハ其貸金
ノ全額ヲ亡産資金中ニ加算セシムルヲ得ス必
ス其受取タル高ヲ減シ其残額ニ付テ請求ノ權
ヲ有ス最モ他ノ連帶義務者及ヒ保証人ニ對シ
テ不足ヲ要求スルノ權利ヲ有セリ

註 ○大審院ノ決議ニ曰亡産人ト亡産ヲ為サ
ル他ノ義務者トノ連帶証書ヲ有スル債主

其亡産以後ニ連帯義務者ヨリ貸金ノ幾分ヲ
受取ルト虽モ証書ノ金額ヨリ除算スルコト
ナク亡産資金ニ付テ請求ノ權ヲ有スヘシ(千
八百五十一年六月二十四日訴訟局ノ決議)
千八百五十二年十一月二十三日同上又千八
百六十一年四月二十七日路安裁判院ノ決議
及千八百六十二年一月十八日巴里裁判院
ノ決議ヲ參看スヘシ

保証人亡産人ノ爲メニ負債ノ幾分ヲ辨償セシ
トキハ其亡産資金ニ對シテ其額ヲ請求スルヲ
得ヘシ此場合ニ於テハ上ニ論究セシ如キ二重
ノ用タルヲ疑惑スルコトナシ(一)何トナレハ債
主ハ保証人ヨリ受取タル金ヲ扣除シテ其残額
ヲ亡産資金ニ對シテ請求スルヲ得保証人ハ其
返辨セシ金額ノミヲ算セラル、ヲ以テ此二ノ
要求ノ額ヲ合シテ貸金額トナレハナリ故ニ此
成規ハ一ノ負債ヲ二重ニ亡産資金中ニ許入ス
ヘカラスト謂ヘル至義ニ負カサルナリ

註(一)連帯義務者中ノ一人其連帯負債ノ金額
ニ付テ訴出タル債主ニ對シ他ノ連帯者ト割

合ヒタル額ニ超過スル金ヲ辨償セシ場合ヲ
云フ

然ルニ若シ重ナル負債者ノ亡産以前ニ内金ヲ
拂ヒタル保證人ハ其負債者ノ亡産資金ニ對シ
テ其拂ヒタル金額ヲ請求スルヲ得ルト為シ債
主モ亦其貸金ヲ要求スルヲ得ルトキハ債主ト
保證人ト同時ニ債主中ニ算セラレハナリ併シ
十カラ拿破倫法典第千二百五十二條ニ貸金ノ
一部分ヲ請取タル債主ハ其殘額ニ付テハ亡産
人ノ為メニ一部ヲ辨償シタル債主ヨリ先ヅ權
利ヲ有スルモノトス此條ハ尤モ保證人ニ施行
スヘキモノナリ故ニ保證人ト債主ト共ニ分配
金ヲ受クヘキ人員ニ加ハリ互ニ同地位ニ在リ
トスレハ債主ハ法律ノ許ス所ノ先取特權ヲ專
有セサル而已ナラス其一方ノ受ヘキ金ノ為メ
ニ亡産ノ分配金額ヲ減少スルヲ以テ保證人ノ
參加ハ債主ノ權利ヲ妨害スル者トス是レ諸大
家ノ舊商法第五百三十八條ニ付テ法律ノ矛盾
ヲ論究セシ所以ナリ蓋シ此五百三十八條ハ保
証人亡産人ノ為メニ債主ニ辨償セシ金額ナル

ヲ以テ亡産人ノ資産中ニ有スル權利ニ付テハ
自ラ新高法第五百四十四條ニ類似セル成規ヲ
含蓄ニタリ然レトモ一方ノ論者之ヲ難シテ曰
論者ハ如何ナル場合ニ於テ第五百三十八條(現
今ノ商法第五百四十四條第二項)ヲ施行スヘキ
ヲ忘却セシナラン即チ亡産及ヒ分配金配當ノ
場合ノ之之ヲ施行スルモノナルコトヲ忘却セ
リ凡ソ分配金ハ何程些少ナリト虽モ要用ナリ
予ハ亡産人ニ對シテ謂フニ非ス何トナレハ亡
産人ハ債主ヲ満足スルニ不足スル金額アルモ
自ラ其負債者タルヲ免カレス(然レトモ亡産資
金ハ悉皆之ヲ付與セサルヘカラス故ニ重ナル
負債者ノ資金ニ對シテ分配金ヲ受取タル債主
ハ其資金ノ金額ヲ辨償セラレシモノト見做サ
ルヘカラス是故ニ第千二百五十二條ハ此場
合ニ用フヘキモノニ非スシテ保証人ヨリ亡産
資金ニ對シテ分配金ヲ請求セントスルヲ防
害スルコトナシ蓋シ此資金ハ保證ヲ受ケタル
債主ニ對シテハ己ニ自由ノモノタリ○千八百
三十八年ノ立法者ノ舊高法第五百三十八條ニ

掲タル主義ヲ維持スルニ注意シタルハ蓋シ此
旨趣ニ出シナルヘシ

然ルニ此所見モ全ク批難ナキモノト謂フ可ラ
ス何トナレハ論者ノ前ニ注目セシ如ク保証人
ノ参加スルカ為メニ亡産ニ對シテ債主ノ受ク
ヘキ金額ヲ減少シ彼ノ貸金ノ部分ノ辨償ヲ受
ケニ債主ハ此部分ヲ拂ヒタル債主ノ先ニ權利
ヲ有スト謂ヘル原則ヲ亂ルモノナリ是レ深ク
記憶セサルヘカラス

蓋シ此ノ如キ成規ハ普通法ノ主義ニ及スルカ
如シ故ニ法ニ明文アラサル以上ハ決シテ施行
スヘカラス斯ノ如キ理由ナルニ依リ假令保証
人負債者亡産ノ後為メニ其負債ノ幾分ヲ拂フ
ト虽モ之ヲ以テ他ノ債主中ニ加入シテ亡産資
金ヲ減少スルヲ得ス

註○是レブラウアルド氏ノ論定スル所ナリ

第五百四十五條○和約ノ調ヒタルトキ各債主
ハ亡産人ニ與ヘタル減額ニ拘ハラヌ猶ホ連帶
義務者及ヒ保証人ニ對シテハ未タ返辨ヲ受ケ
サル金額ニ付テ權利ヲ有セリ何トナレハ貸金

ノ金額ヲ負債主ノ辨償ニ能ハサランコトヲ恐
ル、カ為メニ初メニ連帶人及ヒ保証人ヲ要セ
シニアラスヤ○蓋シ和約ニ依テ與ヘタル減額
ハ決シテ債主ノ隨意ニ出タルモノト為スヲ得
ス

此決定ハ自ラ好テ和約ヲ為サントスル債主ニ
對シテモ亦許可セサル可ラス自ラ好ムト否サ
ルトハ第五百四十五條ニ其區別ヲ設ケス殊ニ
債主ハ沈黙ヲ守リテ和約ノ許可ヲ待サレハ出
訴ノ權ヲ失フコトアリトスルトキハ此約ヲ調

ハシムルノ好結果ヲ大抵生セサルヘシ

第二款質物ヲ有スル債主及ヒ動産ヲ以
テ抵償ニ充シムヘキ特權アル債主

第五百四十六條○質物ヲ有スル債主ハ貸入主ニ
抵償スヘキ價格ノ物品ヲ所持スルヲ以テ其亡
産資金中ニ記名スト虽モ唯々如此債主アリシ
トテ記臆ニ置シカ為メナリ

註○大審院ノ判決ニ日第五百四十六條ハ亡
産人自ラ質物ヲ入置シトキニ限り連帶義務
者ノ入置シトキハ此條ニ依ルヲ得スト為ス

其判決文ニ曰第五百四十六條ニ據リ質物ヲ
引取ルカ又ハ賣テ現金トナスマテ記臆ノ為
メニ債主ノ名ヲ登記スルハ亡産人自ラ質物
ヲ入置キタル場合ニアラサレハ行フヘカラ
ス蓋シ第五百四十七條ニ於テ負債ヲ償却シ
テ質物ヲ取戻スノ權利ヲ管賤人ニ付與シ第
五百四十八條ニ於テ質物賣却ノ代價其負債
額ヨリ過ルモノヲ管賤人ニ受取ルヲ許セ
シニ付テ考フレハ此二ノ權利ヲ有スルハ質
物ノ所有主ニ限ルヲ明ナリ故ニ此條ハ連帶
人ノ質物ヲ入置シ場合ニ於テハ施行スヘカ
ラサルノ理ナリ(千八百五十一年六月二十四
日訴訟局ノ決議)

第五百四十八條○質物ヲ有スル債主ハ質物ヲ
保有シ其賣却ヲ請求スルノ權利ヲ有ス但シ公
賣法普通ノ主義ニ從ハサルヘカラス
而テ賣却代價其債額ニ超過スル片ハ其過額ハ
亡産ノ資金中ニ歸スヘシ故ニ管賤人ノ受取ル
モノトス
又賣却代價債額ヨリ少ナキ片ハ其不足ノ額ニ

付テ一般ノ債主中ニ加入シテ資金ノ分配ヲ受
クヘキモノトス

第五百四十七條○質物ノ賣却ヲ為サ、ル間ハ
亡産ノ利益ノ為メニ管財人債額ヲ償ヒ質物ヲ
取戻スノ權ヲ有ス但シ主任判事ノ許可ヲ受ク
ヘシ(書式第百十條ヲ參看スヘシ)

第五百四十九條○亡産人ノ奉公人ハ前年ノ給
金及ヒ本年已ニ受取ルヘキ給金ヲ先取スルノ
權ヲ有ス(拿破倫法典第千百一條第四項)
拿破倫法典第千百一條第四項中奉公人ナル

語ハ職人及ヒ手代ヲ含蓄スルヤ否ノ問題ヲ生
セリ第五百四十九條ニ於テハ亡産人ノ直接ニ
使役シタル職人及ヒ手代ニ及フト決定セリ然
レトモ職人ハ亡産公告ノ前一月ノ給料ニ止
マリ手代ハ公告前六ヶ月間ノ給金ヲ受ルノ權
ヲ有スルモノトス

註○俳優ハ座元ノ亡産ノトキ拿破倫法典第
二千百一條ノ特權及ヒ高法第百四十九條
ノ特權ヲ有セス蓋シ俳優ハ奉公人ニアラス
職人ニアラス又手代ニアラサレハナリ(千八)

百六十一年三月一日正キス裁判院ノ決議并
ニ千八百六十二年五月二十四日出板ノ「モ
トペリ」氏ノ契約論

第五百五十條○拿破倫法典第二千二百二條第四
項ニ於テ代金未済ノ賣渡物品亡産人ノ手ニ存
在スルトキハ賣渡主ハ其物品ヲ取戻スノ權ヲ
有スルハ前ニ已ニ論シタリ又期限ヲ定メサル
賣渡品ハ其引渡ヲ爲セヨリ八日以内ニシテ
仍ホ亡産人ノ手ニ存在シ且其物品ノ性質ヲ變
セサル間ハ之ヲ取戻スノ權ヲ有スルヲ云論

定セリ

第二千二百二條第四項ニ取戻權ニ関スル商事ノ
法律并ニ習慣外ノ規則ヲ設クルヲナシト謂ヘ
リ故ニ第五百五十條ノ明文ニ第二千二百二條第
四項ニ許可シタル物品取戻ノ權ハ亡産ノ場合
ニ於テハ之ヲ許カスト為ス(一)是ヲ以テ亡産人
ノ動産ノ消散ヲ防キ債主ヲ保護スルナリ蓋シ
其動産ハ債主ヲシテ亡産人ノ辨償カアルヲ信
用セシメタルモノナレハナリ

註(一)數裁判所ノ決議ニ第五百五十條ハ役場

賣渡ノ未済代價ニ於テモ亦他ノ動産賣渡ト
同様ナリトス(千八百五十七年二月十日大審
院千八百四十二年一月十六日巴里裁判院千
八百五十年十二月九日里温^{リッ}裁判院及ヒ千八
百六十年二月二十五日巴里裁判院ノ決議○
巴里裁判院ノ判決ニ曰第五百五十條ニ取戻
ノ特權及ヒ其權利ヲ行フヲ禁スルハ暗ニ
破毀スヘキ者ト認タル條件ヲモ禁シタルモ
ノト謂フヘシ(千八百四十五年八月八日ノ判
決)又同裁判所ニ於テ高林賣渡ノ破約訴訟ニ
付テ特ニ判決セシコトアリ(千八百三十九年
八月二十四日及ヒ千八百四十年二月十五日
ノ決議)

大審院ハ製造券賣買條約ニ付テ賣價ノ金額
ヲ請取ラサル間ハ製造人其權ヲ有スルヲ得
且其金額ヲ得ルカ為メニ再ヒ他ニ賣ルヲ
得ヘシト為ス同院ノ決議ニ曰買受人ノ亡産
ヲ為ス場合ニ在テハ此例規ハ必ス其効力ヲ
有ス(千八百五十九年一月十七日ノ決議)
又巴里裁判院ノ決議ニ曰賣渡人ノ特權ハ左

ノ場合ニ在テハ第五百五十一條ニ拘ハラス之ヲ執行スルヲ得ヘシ民事裁判所ノ書記局ニ於テ分配ヲ開キ且賣渡人ヲ特権者ト假定セラレタル後ニ於テ亡産ヲ公告セシ場合是レナリ是等ノ場合ニ在テハ亡産ノ公告ハ過去ニ及フノ効力ナシ而テ既ニ民事裁判所ニ於テ前ニ為シタル處分ヲ廢止スルヲ得サルナリ(千八百五十六年十二月四日ノ決議)

併ナカラ予ハ商品賣渡人ハ倉庫ヨリ送出スト雖モ未タ買請人ノ倉庫ニ入サレ間ハ之ヲ取戻スルヲ得ルト為ス然レトモ一旦買請人ノ手ニ入レ後ハ其賣品ニ對スル特権及ヒ取戻権ヲ有セス蓋シ取戻権ハ拿破倫法典第千二百二條第回項ニ無期限ノ賣渡品ニ付テハ賣渡ヨリ八日ヲ限リ之ヲ施行スルヲ得ルモノトス然ルニ亡産ノ場合ニ在テハ賣渡人ハ無期限ノ賣渡及ヒ八日ノ期限ニ拘ハラス唯賣品ノ買受人ノ手ニ入サレ間ハ何時ニテモ取戻スコトヲ得ヘシ(高法第五百六十七條)

第五百五十一條○動産ニ對シテ特権ヲ有スル

債主ハ動産賣拂代金ノ分配ヲ待スシテ先ツ貸
金ノ辨償ヲ受ルヲ得ヘシ蓋シ動産ニ對シテ
特権アリト申立ル債主アルハ管財人ヨリ其事
實ヲ主任判事ニ陳述シ判事ハ亡産資本ニ入金
アリ次第直ニ其債主ニ辨償ヲ為スヲ許ス又
此特権ニ付テ争アレハ裁判所ニテ之ヲ判決ス
○諸裁判所ノ決議ヲ見ルニ特権ノ有無ハ商事
裁判所ニ於テ判決スヘキモノトス

註○千八百四十二年八月十六日カエン裁判
所ノ決議ナリ○然レトモ一ノ亡産ニ付テ二
人ノ債主特権ヲ争ヒ亡産人之ニ關係セサル
トキハ民事裁判所ニ於テ判決ヲ為サ、ルハ
カラス(千八百四十九年七月十七日大審院ノ
決議)此場合ニ於テハ商事裁判所ハ権限外ナ
ルコトヲ公告スルヲ要ス(千八百五十一年七
月二十一日大審院ノ決議及ヒ千八百五十三
年七月十三日ナンシノ裁判院ノ決議ヲ見ル
ヘシ)

第三款不動産ノ質物ヲ有スル債主及ヒ
不動産ニ對シテ特権アル債主ノ權利

此類ハ不動産ノ質物ヲ有シ及ヒ不動産ニ對シテ特權アル債主ノ權利ニ関スル特別規則ヲ設ル者ニアラス蓋シ其債主中ニ有スル所ノ權利ノ位次ハ普通法ノ主義ニ付テ決スルモノトス第五百五十二條○動産ノ代價ヲ分配スル前又ハ是レト同時ニ不動産ノ代價ヲ分配スルトキニ當リテ質物ヲ有シ又ハ特權アル債主(一)若シ適當ノ權利ノ位次ニ列セラレサルカ或ハ貸金ノ部分ニ付テ適當ノ位次ニ列セラレサル者ハ其未タ辨償ヲ受ケサル金額ニ付テ通常債主ト同ク動産ニ向テ分配ヲ受クルヲ得ヘシ

註(一)債主タルノ検査ヲ經真正ナリト誓フタル者ヲ謂フナリ(第五百五十二條)

故ニ通常債主ノ為ニスル所ノ處分ニ付テハ凡テ參加スルコトヲ得且ツ和約ニ付テモ關係ヲ有スルモノトス保シ和約ノ人員中ニハ加ハルヲ許サス

第五百五十六條及ヒ第五百五十三條○不動産ノ代價ノ分配前ニ動産ヨリ生セシ資金ノ分配ヲ為ストキハ不動産ノ質物ヲ有シ又ハ不動産

ニ對シテ特權ヲ有スル債主モ亦一般ノ通常債主ト共ニ其分配ヲ受クヘキ者トス何トナレハ不動産ノ質物及ヒ特權ヲ有スルカ為メニ自己ノ權利ヲ妨ケラル、コトナキヲ以テナリ別テ此輩ハ其貸金ノ全額ニ付テ他ノ通常債主同一ノ配當ヲ受クルヲ許サレタリ

第五百五十四條○前條ノ次第ニ依リ不動産ノ代價分配ノ順序ヲ定ムルニ際シ其期限ヲ過クテ申出タル不動産質取主及ヒ特權アル債主ハ未タ動産代價ノ分配ヲ受ケサル者ト見做シ貸

金ノ全額ニ付テ配當人名中ニ記入セラルヘシ而シ其配當金中ヨリ前ニ請取リタル金額ヲ即除シテ以テ之ヲ動産質物代金中ニ返付スヘシ不動産質取主及ヒ不動産ニ對シテ特權アル債主動産ヨリ生スル質金ノ分配ヲ受ケタルハ通常債主ノ受クヘキ資金中ヨリ一時操替ヲ為セシモノト見做スヘシ故ニ此操替ハ後日不動産ヲ賣却シテ貸金辨償ノ餘金アルトキハ不動産債主ヨリ之ヲ通常債主ニ返付セサルヘカラヌ第五百五十五條○不動産ノ代價分配ニ付キ貸

金ノ一部分ニ對シテ分配ニ加ハリタル質物ノ
債主ト雖モ嘗テ其分配ニ加ハラサルト同ク動
産分配ノ人員ニ參加スルヲ得ヘシ 然レト
モ此債主ハ幾干ノ金圓ヲ動産質物代金中ニ返
付スヘキヤヲ定ムル為メニ不動産ノ分配若シ
動産分配ノ前ニアリシ時ハ若干ノ金圓ヲ受取
リタルヲ算定スヘシ若シ動産分配ニ付テ過
分ヲ受取タルトキハ其額ヲ不動産分配ニ付テ
當人ノ受クヘキ金高中ヨリ引去リテ動産質物
代金中ニ返付セサルヘカラス此ニ一例ヲ設テ
之ヲ示サンニ六千圓ノ不動産質取主アリ而テ
動産質物代金ノ分配ハ債主一名毎ニ百ニ付ニ
拾五ノ割合ナリ依テ此質取主ハ千五百圓ヲ受
取タリ然ル後此債主ノ不動産質物代金ヲ分配
スルニ方リテ三千圓ノ債主ト定マルトキハ此
ノ三千圓ノ額ヨリ七百五十圓ヲ引去ルヘシ何
トナレハ法ニ於テ此債主ノ動産資金ニ付テ有
スル権利ハ不動産ニ對シテ有スル権利外ノ金
額ニ從フテ定メタルモノトス 則此例ニ於テハ
三千圓ニ付テ權利ヲ有スルモノトナル故ニ動

産資金中ニ對シテハ假ニ六千圓ノ權利ヲ有シ
現金千五百圓ヲ受取タルヲ以テ其真ニ受クヘ
キ金額ノ二倍ヲ受取タル道理ナリ故ニ通常債
主ノ利益ノ為メ此債主ノ不動産質取權ノ上ニ
七百五十圓ヲ引去ラサルヘカラス但シ動産質
金ノ分配アルトキハ何時ニテモ吾カ不足金ニ
付テ同様ノ割合ヲ受クルヲ得ヘシ

第四款亡産人ノ婦ノ權利

此款ハ夫ノ亡産ヲ為ストキ其婦ノ有スヘキ權
利ニ關スル特別規則ヲ説明スルヲ以テ目的ト
為ス

拿破倫法典ニ於テ婦人ニ與ヘタル權利ハ亡産
人ノ婦ニ對シテハ甚タ狭少ナリ蓋シ當時亡産
ニ付テ大ニ惡弊ヲ生シ亡産人ノ婦タル者ハ概
テ夫ノ債主ニ對シテ殆ト失敬トモ謂フヘキ程
ノ贅澤ヲ為スヲ往々之レアリシヲ以テ千八百
七年ノ立法者ハ之カ為メニ感覺ヲ生シ斯ノ如
キ嚴酷ナル法ヲ設ケタリ而テ千八百三十七年
ノ法律編纂者ハ此法ノ不正ナル部分及ヒ論理
ニ適切ナラサル部分ヲ改正セリ然レトモ此法

ニ於テモ猶ホ商業上ノ信用ヲ維持スルニ充分ナル規則ヲ設ケテ婦人ノ權利ヲ減縮シ以テ弊害ヲ未萌ニ防クヲ得タリ

第五百五十七條第五百五十八條及ヒ第五百五十九條○夫亡産ヲ為ストキハ其婦ハ結婚ノ方法如何ニ拘ハラズ結婚ノ際持參シタル不動産及ヒ結婚後ノ遺物相續生存中ノ贈遺及ヒ遺囑贈遺ニ依テ讓受タル不動産ハ皆之ヲ所有スルヲ得ヘシ

盖シ法律嚴ナリト雖モ婦人ノ所有ニ属スル賤産ヲ奪フニ至ラス然レトモ共通法ヲ以テ結婚シ其不動産ヲ動産ニ交換シテ共通ト為シタル者ハ此限ニ在ラス

又婦ハ相續及ヒ贈遺ヨリ生シタル金ヲ以テ自己又ハ自己ノ名ニテ買求タル不動産ハ夫ノ亡産ノ時モ其儘所有スルノ権ヲ有ス然レトモ其金ノ原因ハ賤産目録及ヒ他ノ公正書類又ハ買得約定書中ニ特ニ記載シタル仕用方等ヲ以テ之ヲ證明スルヲ要ス

金ノ原因及ヒ仕用ヲ如此保証セサルトキハ合

法推測ヲ以テ婦ノ買得タル賤産ハ夫ノ金ヲ以テ支辨シタル者ト為シ夫ニ属シタルモノトシテ亡産資金中ニ算入セラルヘシ但シ及對ノ証據アルモノハ此限ニ在ラス

註○數名ノ學士此規則ヲ以テ羅馬法ヨリ出ルモノトスト雖モ是レ大ニ誤マレリ蓋シ商法ニ之ヲ定メタル原因ハ毫モ羅馬法ニ関スルヲナシ（ポール氏ノ著書ナル エキスボーゼノ賤産ニ付テ夫及ヒ夫ノ債主ノ有スル權利

論四十一枚以下ヲ看ルヘシ

亡産人ノ婦相續又ハ贈遺ニ依テ生シタル金ヲ以テ買得タル不動産ヲ自己ノ所有ト確認セラシ、為メニ賤産目錄公正書類ニ付テ金ノ原因ヲ證明シ且ツ買得約定書中ニ其仕用方ヲ記載スルヲ要スル規則ハ巴里裁判院ノ說ニ依レハ遺物相續及ヒ生存中ノ贈遺又ハ遺囑贈遺ニ付テ用ヒ得ヘキモノニシテ他ノ原因ニ依テ生シタル金ニテ買得タル不動産ニ付テハ該規則ヲ用フルヲ得ストス譬ハ不共通賤産ノ婦自己ノ歳入ヨリ貯蓄シ又ハ手仕事ヲ為シテ儲ケタル

金ノ如キ是レナリ則チ千八百六十七年二月九日巴里裁判院ノ判決ニ曰妻タル者自己ノ名ヲ以テ買得タル不動産ノ權利ニ関スル高法第五百五十八條及ヒ第五百五十九條ハ法律ニ區別ヲ為シ格別ノ規則ヲ設ケタル場合ニ施行スヘキモノトス又遺物相續生存贈遺遺囑贈遺ヨリ生ニタル金ヲ以テ婦ノ買得タル不動産ハ第五百五十八條ニ買得約定書ニ任用方ノ記載アリ且ツ金ノ原因ヲ目錄及ヒ公正書類ニ依テ證明スルニアラサレハ之ヲ取戻スルヲ得スト為ス又金ノ源因此外ニアル場合ニ付テハ第五百五十九條ニ婦ハ所有権ナキ推測ヲ與フト雖モ亦婦ニ許スニ其推測ニ對シテ此不動産ハ自己ノ金ヲ以テ買得タル者ニテ全ク自分ニ屬スルヲ証明スルヲ以テス此場合ニ在テハ其證據ハ婦ノ自由ニ任セ法ニ於テ證據ノ性質ヲ定メス又婦ノ呈出スル證據ハ必シモ公正書類ニ限ラサルヲ以テ普通法ニ依テ許ス所ノ證據法ハ總テ用ヒ得ルハ勿論ナリトス

○此二ノ成規ノ異ナル所以ハ金ノ原因ヨリ生

スルナリ即チ一ハ公正書類ヲ以テ証明ニ得ル
モノト爲シ一ハ之ヲ以テ証明ニ得ヘカラサル
モノト爲スナリ譬ハ不共通財産法ニテ結婚セ
シ婦不動産ヲ買入ル、目的ニテ自己ノ歳入中
ヨリ貯蓄シ又ハ製造ニ付テ儲ケ出シタル利金
ヲ以テ直ニ不動産ヲ買得タルトキノ如シ又法
律ハ夫婦申合セテ債主ニ損害ヲ蒙ラシムル等
ノ奸計ヲ防キ以テ債主ヲ保護スト雖モ復タ婦
ヲシテ如何トモスヘカラサルノ地位ニ陷ラレ
マス故ニ爲シ得ヘカラサル證據ヲ要求セサル
ナリ又亡産資金ニ付テ成立ツ所ノ合法ノ推測
ヲ破ルヘキ爲メニ婦ノ申立ル證據ハ尤モ嚴密
ニ審査セサルヘカラス併テカラ婦カ取戻ヲ望
ム所ノ不動産ヲ買得タル金ハ全ク自己ニ屬セ
シ金ナルコトヲ證明スルニ於テハ其所有推テ
認ムヘキハ法律ノ成文ト精神トニ從フモノト
謂フヘシ(以上巴里裁判院ノ決議)
巴里裁判院ハ仕用方ノ記載ヲ要用ト爲サ、ル
カ如シ然ルニ此記載ハ難キ事ニアラス
是ニ及對セル著述モ亦少ナカラス蓋シ此論者

ハ婦自己ノ金ヲ以テ不動産ヲ買入タリト申立
ルトキハ必ス第五百五十八條ニ掲タル証據ヲ
立テシムヘキモノトス

註○ブラヴァール氏ノドロー、コンセル高法論第五卷ノ五百二十
八枚及ヒベダリド氏ノフアイ亡産論第三卷ノ六号ヲ
看ルヘシ

予ノ見ル所ニ依レハ買入ニ用ヒタル金若シ公
正ニ證明シ難キ源因ヨリ生セシ金ナル片ハ婦
ニ其證明ヲ要求スルモ到底成シ得ヘカラサル
ナリ此ノ場合ニ在テハ如何ナル方法ヲ用テ證
明スルモ妨ケナシ然トモ其當不當ハ裁判官ノ
権限ヲ以テ判定スルノ外ナシ

註○ロマーアル人名第二卷二百九十九号及ヒ
デマンジャー氏評註ヲ加ヘタルブラヴァール氏

高法論第五卷五百二十九枚ヲ参看スヘシ
第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ハ結婚ノ
トキ婦ノ持參シタル不動産又ハ相續或ハ贈遺
ノ不動産ヲ賣却シ又ハ之ト交換ヲ為シ更ニ得
タル不動産ノ取戻権ニ付テ明言スル所ナシ論
者多クハ此不動産ハ婦之ヲ有スルヲ得ヘシト

ナス蓋シ立法者ノ意ハ夫ノ財産婦ノ手ニ歸シ
テ債主ノ損害ヲ来スコトヲ防キ又婦ノ真ノ財
産ニ付テハ其所有權ヲ全フセシムルニアルナ
リ故ニ婦初ヨリ自己ニ屬セシ財産ヲ変シテ更
ニ買得タル財産ヲ取戻スコトヲ妨ルトキハ此
ノ真正ノ主義ニ反スヘシ

第五百六十一條 ○若シ婦其夫ニ自己ノ不動産
ヲ貸渡シ或ハ婦ノ結ビシ契約ニ関シタル裁判
宣告ヲ以テ書入質ヲ命セラレタル場合ニ當テ
婦其不動産ヲ取戻サントスルトキハ其不動産
書入質ノ義務ヲ擔當シ更ニ合法ノ手續ヲ為サ
ルヘカラス

註○第五百六十一條ニ合法ノ手續トアルハ
持參品ヲ以テ嫁シタル婦ニ付テ謂フカ如シ
蓋シ不動産ノ主義ニヨリ約束上ヨリモ裁判
上ヨリモ夫ハ婦ノ持參品ヲ以テ質入レトナ
スヲ得サレハナリ

第五百六十條 ○婦ハ婚姻契約書ニ記載シタル
細物類飾物類食器麻布等ノ家資ヲ取戻スコト
ヲ得ヘシ但シ共通法ニ依テ結婚シタル者ハ特

ニ自己ニ属スル物タルヲ証明スルヲ要ス
共通法ニテ結婚シタル婦物品ヲ金ニ換タルト
キハ其金ヲ以テ買求タル物産ハ共通物トナリ
婦ハ其價格ノ債主トナルヤヲ知ルノ問題ハ拿
破倫法典第千五百三條ニ付テ起リタルハ世
人ノ知ル所ナリ法律家多クハ婦ノ所有権ナリ
ト確認セリ裁判事例モ亦然リ蓋シ第五百六十
條ニ於テ共通ナラサル家資ヲ取戻スコトヲ婦
ニ許シタルハ則チ此意ヲ含ムモノナルヘシ
又婦ハ不共通財産ノ法ニ依テ婚姻セシトキハ
遺物相續生存者ノ贈遺遺囑贈遺等共通ニ入ラ
サル所ノ動産ヲ取戻スノ権利ヲ有ス
然レトモ如何ナル場合ニ於テモ取戻ヲ請求ス
ルノ要件ハ目錄又ハ又ハ他ノ公正書類ヲ以テ
其真正ヲ證明スルナリ

註○共通ニ入ラサル財産ト雖モ婦公正書類
ニ依テ證明スルニテラサレハ取戻スコトヲ
得スト定ムル第百六十條ノ成規ハ夫ノ亡
産ニ際シテハ必ス施行スヘキモノニシテ特
リ第五百六十三條ニ掲タル場合ニ止マラス

即チ夫結婚ノ前商人ナリトキ又ハ結婚ノ
トキハ未タ定リタル職業ナクシテ後ニ商人
ト成リタルトキモ同一ナリ立法者ノ第五百
六十條ヲ第五百六十三條ニ依テ説明シタル
者トスルヲ示シタル者ハ未タ有ラサルナ
リ(千八百五十七年四月十六日路安^ル裁判院ノ

決議

若シ婦其証明ヲ為ス能ハサルトキハ婚姻ノ方
法如何ニ関セズ現ニ夫之ヲ用ヒ婦之ヲ用フル
ニ總テ夫ノ亡産資金中ニ算入セラルヘシ婦ハ
其必用ナル衣服及ヒ麻布ノミヲ受クルヲ得ヘ
シ是レ主任判事管賤人ニ之ヲ許スノ權ヲ有ス
ルモノトス

第五百六十二條○前條ノ主義ニ據リ賤産共通
法ニテ結婚セシト分括法ニテ結婚セシトヲ問
ハス凡ソ婦タル者夫ノ為メニ負債ヲ拂フタル
トキハ夫ヨリ得タル金高ヲ以テ拂ヒタルモノ
ト法律上ニテ恩料スヘシ故ニ之ヲ拂ヒタルト
テ亡産資金ニ對シテ哀訴ヲ為スヲ得ス但シ
其仕拂ヒタル金ノ原因ヲ証明スルトキハ格別

ナリトス

第五百六十三條○書入質ニ関スルノ法律ハ亡産人ノ婦(一)ノ権利ト通常人ノ婦ノ権利トノ間ニ大ナル區分ヲ設ケタリ

註(一)裁判事例及ヒ一般ノ學士ハ第五百六十三條ハ亡産ヲ公告セサルトキニ於テモ眞ニ亡産ノ成立ツ以上ハ施行スルヲ得ヘシト為ス

婦ハ夫ノ現ニ有スル不動産并将来得ヘキ不動産ヲ總テ書入質ト為サシムルノ権利ヲ有スル
「ハ諸人ノ知ル所ナリ(拿破倫法典第一千二百一十一條及ヒ第一千二百三十五條ヲ見ルヘシ)亡産ノ場合ニ於テハ婚姻ヲ結ヒシトキ夫ノ所有セシ不動産又ハ其以後遺物相續生存者ノ贈遺及ヒ遺囑贈遺ニ依リテ得タル不動産ニ限リ我カ為メニ書入質ト為サシムルヲ得

法律ハ夫ノ買得タル不動産ニ付テ婦ニ特權ヲ與ヘス蓋シ此買得ノ為メニ用ヒタル金ハ債主ヨリ借入レタルモノ最モ多ケレハナリ

結婚ノ際己ニ夫ニ屬シ又ハ結婚ノ後遺物相續

生存者ノ贈遺遺囑贈遺ニ依テ得タル不動産ナ
ルヲ以テ夫之ヲ婦ニ引當テ置キタルニ結婚後
之ヲ他人ト交換シタル場合ニ於テハ亡産ノ際
婦ハ其代リニ得タル不動産ヲ書入質ト為サシ
ムルヲ得ヘシ何トテレハ夫債主ノ金ヲ以テ買
得タル者ニアラサルヲ明亮ナレハナリ

註 ○ グレノール裁判院ノ判決ニ結婚ノ際
ヨリ又ハ結婚ノ後々相續及ヒ贈遺等ニヨリ
夫婦合同ニテ所有権アル不動産ヲ共カスル
カ又高札法ヲ用フルカニ據リテ夫全部ヲ得

タル不動産ハ亡産ノ際婦書入質ト為サシム
ルヲ得ヘシトス其説ニ曰此判決ハ第八百八
十三條ノ主義ノ結果ナリト(千八百五十七年
八月五日ノ決議)デモロンブ氏ノ相續論第五
卷第百二十八号ヲ參看スヘシ

結婚ノ際夫所有セシ不動産又ハ相續及ヒ贈遺
ニ依テ得タル不動産上ニ結婚ノ後ニ為シタル
建築増築改築等ハ婦之ヲ書入質ト為サシムル
ヲ得ス是前ニ述タル同ニ理由ニヨリテナリ

註 ○ 千八百五十五年十二月二十九日路安裁

判院及ヒ千八百五十八年六月二十八日グレ
ノリブル裁判院ノ決議ハ此主義ニ反セリ
千八百三十八年ノ立法者ハ夫カ相續及ヒ贈遺
ニ依テ得タル不動産上ニ付キ婦ニ書入トナス
ノ權ヲ付與セリ何トナレハ其名義ニ付テ夫ヨ
リ出スヲナク從テ之ヲ得ル為メニ債主ノ金ヲ
拂ハサルヲ知ルニ足り殆ト詐偽ノ恐レ無キ
ヲ以テノ故ナリ
婦ハ前ニ掲ケタル夫ノ財産ニ對シテ左ノ諸件
ノ為メニ書入ノ權ヲ有ス

第一〇婦嫁資トシテ持来リタル動産及ヒ金高
又ハ婚姻ヲ為シタル後遺物相續生存者ノ贈遺
遺囑贈遺ノ名義ニテ得タル動産及ヒ金高ヲ夫
ニ渡シ又ハ夫ノ為メニ拂ヒ其確カナル日附ノ
證書ヲ有スル事

註〇婚禮証書ハ請取証ニ用立ツヘキヲ結
婚約定書中ニ記スルトキハ約定ノ物品ヲ持
參セシ証據トシテ公正ナル請取証ノ効マル
ハシ(千八百三十六年一月十九日及ヒ千八百
六十年二月二十二日大審院ノ決議及ヒ千八

百五十三年十二月二十八日コルマール裁判
院ノ決議

第二〇夫婦タルノ間婦ノ財産ヲ賣拂ヒ其代金
ヲ他ニ用フル事

註〇婦其夫ノ面前又ハ夫ノ許諾ヲ得テ拂ヒ
タルコトノ公正ナル請取証ヲ以テ証明シテ
可ナリ別ニ日附ノ確カナル公正ノ約定書ヲ
以テ金ヲ夫ニ渡シタルノ證據ト為スヲ要
セス(千八百五十二年十二月二十七日訴訟局
ノ決議)

第三〇婦其夫ト共ニ負フタル債ノ償ヒヲ得ル
事

註〇夫婦タルノ間ニ夫ノ面前又ハ許諾ヲ得
テ賣渡ヲ為シタルノ証スルヲ以テ足レリ
其代價ノ夫ノ手ニ入りタルノ日附ノ確カ
ナル証書ヲ以テ証スルヲ要セス(千八百五十
二年十二月二十七日訴訟局ノ決議)

讀者ノ見ル如ク新法律ハ拿破倫法典第百
三十五條ニ於テ婦ノ書賣權ヲ有スル債ニ付テ
掲記セシ件々ヲ採用シテ再ヒ列記セリ就中コ

ンガアンシヨン、マトリモニアルノ事ヲ取除ケタリ
コングアンシヨン、マトリモニアルナル語ハ第二千
百三十五條ニ於テ結婚約定書中ニ夫カ婦ニ付
與セシ利益ヲ指示スル為ニ用フル者ナリ此
一點ニ付テハ婦書入ヲ為サシムル權利ガモ有
スルナレバ何トナレハ第五百六十四條ノ規則
ニ於テ婦ハ結婚約定書ニ掲ケタル利益ノ為ノ
ニハ決シテ訴ヲ為スヲ得ストセリ
且婦ノ有スル書入質権ハ婚姻ヲ為セシトキ夫
己ニ商業ヲ營ミタルナリ又ハ其時職業ナクシテ
一年以内ニ商人トナリシ時ノ場合ニアラサレ
ハ前ニ掲ケル如ク減縮セラル、ナレバ
註○ベガンソン裁判院ハ夫タル者婚姻定約
書中ニ商人タル性質ニ掲クト雖モ若シ當時
真ニ商人タラサリシニ於テハ亡産ノ際婦ノ
書入質権ノ利益ヲ奪フコトヲ得スト判決セ
リ(千八百五十六年二月十三日ノ決議)
婦タル者結婚ノ際其夫ハ商人ニシテ亡産ニ係
ルノ不運モアルヘキナリ豫知シ得サル場合
ニ當テハ立法者普通法ニテ婦人ノ有スル質物

権ヲ奪フベカラスト断定セリ

亡産人假令債主ト和約ヲ為シ得ルト雖モ之カ
為メニ婦ノ書入質権ノ減縮ヲ再暢スルコトナ
シ蓋シ婦ハ和約前ニ夫ノ有セシ財産ニ限リ且
商法ニ定ムル区域内ノ権利ヲ施スコトヲ得ル
者トス大審院ノ決議ニ曰和約ナル者ハ決シテ
亡産ノ現況ヲ消滅スルニアラスニテ及テ亡産
ニ確タル結果ヲ付スルモノナリ蓋シ亡産ノ蹤
跡ハ唯復権ヲ以テ消滅スルコトアルノミ亡産
人ノ婦ノ書入質権ヲ減縮セシ理由ハ和約ノ後

ニ於テモ其以前ノ如ク成立スヘシ法律其區別
ヲ為サス又之ヲ為シ得ヘカラサルナリ復権擧
リ能ク亡産ノ蹤跡ヲ打消スコトヲ得ルノミ
八百五十八年十二月一日ノ決議

然レトモ二三ノ學士ハ右ノ決議ノ根據タル理
由ヲ批撃セリ試ニ其一ヲ擧シニマセー氏曰其
著書第三卷第四百枚決議ノ理由ハ諸人ノ思ヘ
ル如ク復権ニアラサレハ消滅セサル亡産ノ現
況ハ和約ニ依テハ消滅セズト謂ヘル點ニ帰着
セス蓋シ亡産ハ和約ヲ以テ終結スヘシ何トナ

レハ和約ヲ得タル亡産人ハ亡産ノ為メニ剥奪
セラレタル所ノ財産所管ノ権利ヲ復スレハナ
リ故ニ決議ノ理由ハ尤ノ如ク論定セサルヘカ
ラス抑和約ハ其以前ノ事ニ迄功カヲ有セス
ヲ己ニ生シタル亡産ノ成立ヲ消スヲ得ス又
亡産ハ夫ノ現在ノ財産ニ付婦ノ有スル権利ヲ
定メタリ而テ之ニ由テ他ノ債主ノ利益ニ及シ
タル権利ヲ生シタレハナリ

第五百六十四條○予ハ前キニ亡産人ノ婦ハ婚
姻約定書中ニ夫ヨリ受ケタル利益ニ付キ亡産
ニ對シテ毫モ権利ヲ有セサルヲ注意セシメ
タリ(一)然レトモ債主ニ於テモ亦同約定書中ニ
婦ノ夫ニ與ヘタル利益ニ付テ権利ヲ有スル
ナレ是誠ニ正當ナル及照ト謂フベシ

註(一)故ニ夫婦タルノ間ニ夫ヨリ讓受タル財
産上ニ特權ヲ有セサルハ論ヲ待ス何トナレ
ハ一層之ヲ受クヘキノ條理ナケレハナリ
夫婦間互ニ與フル利益ノ期限ヲ定ムル所ノ第
五百六十四條ノ成規ハ夫婚姻ノ際ニ商人タル
カ又ハ其時定業ナクシテ婚姻ノ後一年内ニ商

人ト為リモトキノ外之ヲ施行セス

第八章債主ニ金高ヲ配當スル事及ヒ動産ノ價額ヲ定ムル事

此章ハ各債主ニ動産ヲ分配スルノ方法(第五百六十五條及ヒ第五百六十六條)及ヒ動産ノ價額ヲ決定スルノ規則ヲ説明ス

予既ニ前章ニ於テ連合シタル管賤人ハ動産ノ價格ヲ決定スルヲ擔任シテ其賣捌ヲ為スノミナラスニ動産人ノ貸金ヲモ取立テサルヘカラサルヲ論シタリ今分配ノ方法ヲ説明スルニ當リテ管賤人其貸金ノ取立ヲ為サ、ルトキハ

借主ハ如何ナル權利ヲ有スルヤヲ説明スヘシ

第五百七十條

第五百六十五條 ○動産ノ代金ヲ取集タル上ハ檢査ヲ受ケ且ツ真正ヲ誓タル質物ヲ有セサル債主ニ其貸金高ノ割合ニ從ヒテ之ヲ分配スヘシ(一)然レトモ此分配ヲ為ス前ニ先ツ左ノ諸額ヲ引去ルモノトス 第一ニ動産ノ支配ニ関スル費用 第二ニ扶助料トシテ動産人ニ付與スヘキ金額 第三ニ第五百五十一條ニ準シ特權アル債主ニ拂フヘキ金額及ヒ質物ニ入置タル動産ヲ受戻ス

為メニ仕拂ヒシ金額(第五百四十七條)

註○併ナカラテ不動産ニ對シテ質物權又ハ特權ヲ有スル債主ノ權利ニ関シテ第七章第三款ニ述タルヲ參看スヘシ

分配ヲ為スハ必シモ動産ヲ代價トナスヲ待ツニ及ハサルカ如シ(商法第四百八十九條ノ論理其以前ニ於テモ分配ヲ命スルコトヲ得ヘシ

第五百六十六條○管財人ハ亡産人ノ財産ノ模様書及ヒ預リ役所ニ納タル金高ノ書附トテ毎月主任判事ニ差出スヘシ判事ハ其要用ト認ム

ルトキ財産ノ分配ヲ命シ各債主ノ割合高ヲ定メ且其旨ヲ各債主ニ告知スルコトニ着意スヘシ

(書式第二百十一号及ヒ第二百十二号ヲ見ルヘシ)

第五百六十九條○管財人ハ其仕拂タル金高及ヒ第四百八十九條ニ依テ仕拂ヲ命セラレタル金高ヲ債主ノ証書ニ記入スヘシ

此記入ヲ為スハ既ニ償ヲ受タル部分ヲ再ヒ請求ニ能ハサルノ証書ヲ所持スル者ノ詐偽ヲ防クノ目的ニ出ツ且連帶負債者ノ債主其連帶者

數名ノ亡産ノ資産ニ對シテ貸額ヨリ超過セル
高ヲ請取ラントスルヲ禁スルカ為メナリ
各債主ハ分配扣帳ニ請取証ヲ記スヘシ○是ヲ
以テ債主又ハ其相續人仕拂高ノ記載アル証書
ヲ差出サ、ル場合ニ生スヘキ争ヒヲ防クヲ得
ヘシ蓋シ分配扣帳ハ管賤人之ヲ保存スルヲ以
テ何時ニテモ己ニ仕拂ヲ為セシ高ヲ証明スル
ヲ得レハナリ

確實ナル証書ヲ差出スモノニ非レハ管賤人ハ
決テ仕拂ヲ為スヘカラス(一)然レトモ之ヲ差出
スヲ能ハサル場合ニ於テハ主任判事其ノ調書
ニ付テ仕拂ヲ許可スルコトアルヘシ

註○大審院ノ決議ニ曰債主他ノ連帶義務者
ノ亡産ニ付テモ分配ヲ得ルカ為メニ証書ヲ
要ニ主任判事及ヒ管賤人ニ請フテ証書ヲ引
取テノ許可ヲ得タルニ於テハ分配ヲ受ル為
メニ之ヲ差出スニ及ハス(千八百五十二年十
一月二十三日ノ決議)

第五百六十七條○第四百九十二條ニ於テ佛蘭
西大陸外ニ住居スル債主ニ其貸金ヲ申出テ其

檢認ヲ請求スルノ特別ノ延期ヲ付與セリ而シテ
亡産ノ處分ヲ延滞セシメサル為メニ此満期ヲ
待スニテ處分ヲ為スヲ得ルモノトス是レ讀
者ノ前ニ不知スル所ナリ○故ニ如此債主ノ不
在ニ拘ハラズ資金ノ決算ヲ為シ又時宜ニヨリ
テハ負債ノ辨償ヲモ為スコトアルヘシ然レモ
其利益ヲ監視セサルヘカヲサルカ故ニ大陸内
住居ノ債主先ツ辨償ヲ受ルトキハ亡産人ノ計
算帳ニ登記シタル大陸外住居ノ債主ノ債額ニ
對シテ各自相當ノ高ヲ残シ置キ其餘金ニ非サ
レハ受ルヲ得ス是亦予カ先キニ陳述セシ如
シ

若シ主任判事其債額充分ニ積書ニ登記シアラ
スト認ムル片ハ貯蓄スヘキ額ヲ増加セシムル
コトヲ得ヘシ但シ管財人不服ナレハ之ヲ高事
裁判所ニ出訴スルヲ得

第五百六十八條○前條ノ貯蓄ハ本債主ノ申出
ヘキ期限内預リ役所ニ留メ置クヘシ若シ満期
ニ及ヒテ債主檢定ヲ請ヒ各債主ニ公認セラル
、ノ手續ヲ為サ、ル片ハ既ニ公認セラレタル

所ノ債主中ニ之ヲ分配スヘシ(書式第二百十三号ヲ参考スヘシ)

又債主タルノ認可未タ確定セサル者ニ付テモ同前ノ貯蓄ヲ為スヲ要ス

貯蓄金ヨリ生スル利子ハ何人ノ有ナルヤ亡産資金ナルヤ將タ其金ヲ受取ルヘキ債主ノ有ナルヤノ問題アリ

或ル論者曰此利子ハ亡産資金中ニ入レサルヘカラス何トナレハ貯蓄ハ仕拂ヲ為セシ者ト同カラス且亡産資金ノ為メニ各債主ノ利息ハ停

止セラレタリト云ヘル至義ニ基キ無論ニ此利子ハ貯蓄金ヲ受ルモノニ帰スヘキ理由ナシ

予ハ是ニ反對ノ説ヲ以テ適當ナリト信ス抑此場合ニ在テハ債主ノ請求スル金額ノ利子停止

ノ如何ニ関スルナシ唯貯蓄ノ利子ハ為メニ貯蓄ナレタル債主ニ属スルヤ否ヤヲ知ルヲ要スルノミ即一言以テ決スヘシ附属體ハ其本體ニ從ハサルヘカラス

第五百七十條○連合シタル債主ハ商事裁判所ニ請フテ亡産人ヲ呼出シ又ハ是ヲ呼出スモ出

頭セサル片(一)取戻ヲ訴ヘ出サル所ノ證書類ノ
取扱ニ及ヒ是ヲ賣却スルヲ得ヘシ(書式第二
百十四條及ヒ第二十五條ヲ見ルヘシ)此場
合ニ於テハ管財人ハ必用ノ手續ヲ為スヘシ

註(一)法律ニ亡産人ヲ呼出スコトヲ要ストア
レハ亡産人ハ管財人ノ處分ニ對シテ抗拒ス
ルノ權ヲ付與シタルヤ明ナリナニシテ裁判
院ノ判決ニ曰法ニ所謂必ス呼出シタル上ナ
ル語ハ亡産人自己ノ利益ヲ保護スル為メニ
管財人ノ所為不當ナリト認ルトキハ之ニ對

シテ辨明又ハ抗拒ヲ為サシムルモノト解セ
サルベカラス蓋シ亡産人ノ欠席ニテ証文ヲ
賣却スルトキハ亡産ノ負債額ヲ減スヘキ賣
却方ヲ為スヘキ恐アルカ為メニ之ヲ除カサル
ヲ得サルヲアルヘシ故ニ亡産人ハ普通法ニ
訴ス所ノ權利ヲ有スヘキ真正ノ相對人トシ
テ商法裁判所ニ出席シテ管財人ノ所分ニ參
加スルヲ要スルナリ

或ハ曰亡産中往々取戻ニ困難ナル貸金アリ蓋
シ或ハ不確ヨリシテ爭論ヲ起シ或ハ負債者無

カナレハナリ取戻ヲ為ス為メニ多分ノ時日ト
費用トヲ要スヘシ之ヲ要スルモ仍ホ目的ナキ
モノアリ此種類ノ訴訟ハ管賤人之ヲ為スハ平
人ニ於テ為スヨリ難シ多クハ取戻ス所ノ金ヨ
リ其費用多シト為ス諸債主ノ利益ノ為メニ管
賤人成可ク速ニ其處分ヲ為シ訴訟ヲ為スモ時
日ヲ費シ困難ナル貸金ノ如キハ之ヲ賣却セサ
ルヘカラス

凡ソ債主ハ連合シタル債主ノ結約又ハ賣買ニ
付テ為セシ所ノ評決ニ對シテハ主任判事ニ出
訴スルヲ得ヘシ

前項ノ事ハ出席債主ノ過半数ノ同意ヲ以テ之
ヲ決スルヲ得ヘシ

然レトモ第五百七十條ノ成規ハ予カ前ニ述ヘ
タル如ク取戻ノ不確ニシテ到底皆濟ニ至ラス
為メニ裁判所ヲ煩ハサシムルヘカラサル如キ貸
金ニ付テノ之ヲ施行スルヲ要ス然レトモ善
良ナル貸金確ナル貸金ナレハ管賤人ニ於テ主
任判事ノ通常ノ監査ヲ受ルニ止マリ高法第五
百三十四條ニ掲クル所ノ許可ヲ得ルニ及ハス

レテ之ヲ賣ルルヲ得ヘシ

第九章 亡産人ノ不動産ヲ賣拂フ事

此章ハ不動産ヲ差押ヘテ賣拂フルヲ訴出ルノ
権ハ何人ニ属スルヤ又如何ナル方法ニ因ルヤ
ヲ指定スルモノトス

第五百七十一條 ○予既ニ前ニ謂ヘル如ク亡産
ヲ公告ス可キ申渡ハ債主各自ノ訴訟ヲ停止ス
而テ此主義ヲ實行スル為メニ公告申渡ノ日ヨ
リ無質ノ債主ハ執行権アル証書ヲ有スルモノ
ト虽モ亡産人ノ不動産ヲ差押ヘシムルヲ得

ス

公告申渡ノ後差押ヘノ訴訟ヲ始ムルノ権ヲ有
セサル無質ノ債主ハ公告申渡ノ前己ニ訴訟ヲ
始メタルトキハ仍ホ之ヲ繼續スルヲ得ルヤ
否ノ問題アリ

第一説 ○無質ノ債主ハ公告申渡ノ前ニ始メタ
ル訴訟ヲ終フルモ為メニ利益ヲ有スルヲナシ
何トナシハ其賣拂ヨリ生シタル代價ヲ受取ル
コトヲ許サ、レハナリ此代價ニ付テハ他ノ債
主同一ノ権ヲ有スルノミ是レ總テノ債額ニ分

配スヘキ代價ナレハナリ故ニ管財人ハ無質ノ
債主ニ對シテ其訴訟ノ停止ヲ告知スルヲ得債
主ハ其告知ニ從ハサルヲ得ス

註○レリー子イ人名并書名四百八十枚ロヌーアール同上

第一卷三百二十三枚ブラウァールド同第五卷百
三十二枚以下ヲ見ルヘシ又千八百四十三年
一月六日路安裁判院千八百四十六年七月二
日巴里裁判院及ヒ千八百五十八年一月十八
日ジジヨン裁判院ノ決議ヲ見ルヘシ(千八百
五十八年ジジヨン裁判院判決録十二枚)

然レトモ此所見ヲ信スル學士ハ概ネ管財人
ハ無質債主ノ己ニ支辨セシ費用ヲ辨償シタ
ル上ニアラサレハ其訴訟ヲ停止セシムルヲ
得スト為ス或ル裁判院ノ決議ニモ此費用ハ
拿破倫法典第二千一百一條ノ意ニ從ヒ裁判人
費トシテ特權アルモノトセリ(千八百四十年
十一月二十八日ポルドー裁判院及ヒ千八百
五十八年一月十八日ジジヨン裁判院ノ決議)
第二說○予考フルニ無質ノ債主ハ亡産公告申
渡ノ前ニ始メタル不動産差押ノ訴訟ヲ繼續シ

テ之ヲ結了スルノ權利ヲ有ス此說ヲ贊助スル
ニハ高法第五百七十二條ノ論理ヲ推窮スルヲ
善トス抑彼條ニ於テ有質ノ債主連合ノ前ニ始
メタル差押ノ訴訟ヲ繼續スルコトヲ許セリ然
ルニ有質ノ債主連合ノ後ニ差押ノ訴訟ヲ始ム
ル能ハサルハ全ク無質ノ債主ノ公告申渡ノ後
ニ之ヲ為スヲ得サルト一般ナリ故ニ若シ甲者
其訴訟ヲ繼續スルヲ得ルトキハ乙者モ亦同一
ノ權利ヲ有スト決セサルヲ得ス抑不動産ヨ
リ生スル代價ハ債主ノ總員ニ分配セサルヘカ
ラスト云フノ論旨ハ甚タ要用ナラス蓋此訴訟
繼續ノ權利ハ何人ニ屬スルヤヲ知ルノ問題ヲ
決セントスルモ更ニ其連絡ナキヲ如何セン何
トナレハ普通法ノ主義ニ依テ債主ハ無質有質
ヲ問ハス執行証文ヲ有シ明確ナル貸金ノ為メ
ニハ假令賣却ヨリ生スル代價ノ全部ヲ取上ケ
得ヘキ有質ノ債主アリト雖モ負債者ノ不動産
差押ヲ出訴スルヲ得レハナリ

註 ○パルドスエ 人名并 第千七百七十五号エスノ
書名

ト同 第六百二十五号千八百三十九年十一月

三十日巴里裁判院千八百五十九年三月十四
日シヨシヨシ裁判所ノ決議等ヲ見ルヘシ又ア
キマ裁判院ノ決議ニ曰公告申渡前ニ始メタ
ル動産處分ハ申渡後ト雖モ管財人ニ對シテ
保續ニ得ルモノトス(千八百四十年七月二十
一日ノ決議)

不動産ニ對シ質物ヲ有シ又ハ特權アル債主ハ
予カ前ニ謂ヘル如ク特別ノ地位ニ居ル而テ亡
産ノ公告申渡後ト雖モ自己ノ名ヲ以テ管財人
ニ對シ吾カ有スル質物又ハ特權ノ存スル不動
産ノ差押ヲ出訴スルコトヲ得ヘシ(第五百七十

一條ノ論理)

然レトモ亡産ノ場合ニ於テハ特權又ハ質物ヲ
有スル債主ニ亡産處分ニ參加スルノ權利及ヒ
分配ヲ受ルノ權利ヲ付スル所ノ要求權ナル者
ハ未タ貸借満期ニ至ラサルモ該債主ニ不動産
ノ差押ヲ訴訟スルノ權利ヲ付與スルヤ否ヤヲ
知ルノ問題ニ付テハ論理家ト裁判事例ト往々
其撥ヲ異ニセリ

右權利ヲ付與スルモノト為スノ說ハ二三ノ學

士及ニ敷所ノ裁判院(一)ニ於テモ認可シタリ其
說ニ曰高法第四百四十四條ハ拿破倫法典第千
百八十八條ヲ實施スルモノニ過スニテ本條ニ
依レハ質物上ニ減額ヲ生スルトキハ貸借ノ期
限ハ満タタルモノトナリ債主ハ直ニ貸金ヲ要
求スルヲ得ヘシ法律ニ於テ無質ノ債主ト特權
又ハ質入アル債主ノ間ニ差別ヲ立ルナシ

註○マルカデー人名并書名ノ拿破倫法典第千百
八十八條ノ註解千八百六十一年五月十五日
アンゼール裁判院千八百六十六年二月二日

英三月六日アゼン裁判院千八百二十七年八月二十
二日ポルドー裁判院ノ決議等ヲ見ルヘシ
又否トスル論者ノ說ニ曰若シ特權又ハ質物ヲ
有スル債主公告申渡後ニ差押ノ訴訟ヲ為シ得
ルモ是レ該債主等ヲ亡産外ニアリテ普通法ニ
ヨルヘキモノト認ルカ為メナルヘシ故ニ差押
ヲ訴ルヲ得ルニハ貸借満期ヲ待コトヲ要ス何
トナレハ満期ヲ待ツハ普通法ニ要求スル規則
ナレハナリ

註○パルドスエ人名并書名千二百二十七号ベダリ

上同 第三卷千八十三号ブラヴァールド第五卷

百五十枚以下及びヒデマンジヤノ氏ノ評註セ
シ「ブラヴァールド第五十九枚等ヲ見ルヘシ又
千八百六十一年十二月十二日巴里裁判院ノ
判決理由書千八百十一年十二月五日ブルエ
セル裁判院ノ判決ヲ見ルヘシ

此乙説ハ別々予カ前ノ著書中ニ採用セシ所ナ
リ

第五百七十二條○連合ノ場合ニ至テハ質物ヲ
有シ又ハ特権アル債主タリトモ剝奪ノ訴訟ヲ

始ムルコト能ハス但タ連合前ニ始メタル訴訟
ヲ保續スルヲ得ルニ過キス

不動産賣拂ヲ取扱フノ権ヲ有スルハ獨リ管財
人ニ限ルヘシ管財人ハ債主連合ノ日ヨリ八日
内ニ主任判事ノ許可ヲ受ケテ之ヲ處分スルヲ
得ヘシ(書式第二百十六條ヲ見ルヘシ)

賣拂ハ訴訟法第九百五十四條及ヒ其次條ニ於
テ未了年者ノ財産賣拂ノ為メニ設ケタル方法
ニシテ千八百四十一年六月二日ノ法律ニ依テ
改正セシモノニ準據スヘシ

註○唯予後ニ陳述スヘキ高札ノ割合ニ関ス
ルコト及ヒ其高札ヲ入レ得ル期限ノコトヲ
加フヘキモノトス

賣拂ヲ為スハ民事裁判所ニ於テニ商事裁判所
ニ於テスルヲ得サルハ勿論トス

第五百七十三條○己ニ糶賣ヲ了ハリタル止産
人ノ不動産ヲ管財人ノ取扱ニヨリテ猶一層高
札ニ賣ントスル時ハ其許可ヲ受ケ且ツ左ノ法
ニ循フヘシ

第一 糶賣濟宣告ノ日ヨリ十五日以内ナル

一

第二 初度糶賣ノ高札ヨリ十分一以上ノ増
金ヲ出スコト

右高札ハ何人ヲ問ハス之ヲ入ル、コトヲ得書
式第二百十七号ヲ見ルヘシ(商法第五百七十三
條ニ曰高札ヲ為スハ訴訟法第七百十條及ヒ第
七百十一條ニ登記セル書式ニ循ヒ民事裁判所
ノ書記局ニ差出スヘシ然レハモ該條ハ千八百
四十一年六月二日ノ法律ニ依テ改良セラレタ
ルヲ以テ訴訟法第七百八條及ヒ其次條ノ成規

ニ準據セサルヘカラス

然レトモ訴訟法ノ新條ナル第七百八條及ヒ第
九百六十五條ニ高札ヲ為スハ初度糶賣ノ最高
札ヨリ六分一以上ヲ出スモノト為スト虽モ此
増金ハ亡産ニ付テハ十分一ト定メタリ又高札
ヲ入ル、ハ十五日以内ニシテ予カ既ニ謂ヘル
如ク八日以内ニアラサルナリ

註○拿破倫法典第二千八百五條ニ依テ登
記ヲ受タル債主ニ與ヘタル高札権ハ管財人
ノ請求ニヨリ不動産ノ糶賣ヲ為セシ場合ニ

在テハ之ヲ施行スルヲ得ス此糶賣ハ前ニ述
ヘタル如ク何人ニテモ十五日以内ニ高札ヲ
入ル、ヲ得ヘシ○故ニ糶買人ハ質入権アル
債主ノ訴訟ヲ防カンカ為メニ賣買約定ヲ通
知スルノ責ヲ有セス(千八百五十一年三月十
九日訴訟局ノ決議千八百五十年オルレア
ン
裁判院千八百五十六年一月二十八日ニ
ム
裁判院ノ決議ヲ見ルヘシ又千八百五十九年
八月四日ヅリエー裁判院ノ決議ヲ参考スハ
シ)又十五日ヲ過ルトキハ不動産ノ價額確定

又蓋シ是ヨリ先キ亡産ノ公告及ヒ債主ニ與
ヘタル通知ハ其利益ノ為メニ訴訟ヲ為スノ
時間ヲ充分ニ付與セリ千八百六十四年八月
三日大審院ノ決議○然レトモ前所有主亡産
人ノ不動産ニ對シ債主トシテ登記セラレタ
ルトキハ自身ニ直接ノ債主タラサリニテ以
テ亡産ノ処分ニ関セス且ツ連合ノ條約中ニ
参加セス故ニ糶買人ハ此債主ニ對シテ質入
ヲ自由トナスノ手續ヲ盡カ、ルニ於テハ安
全ナラサルヘシ(千八百五十八年十一月九日

ノ決議

何人ニテモ高札ヲ入ル、ニ於テハ糶賣ニ参加
スルヲ得ヘシ

而テ今回ノ糶賣ハ確定ノモノト為リ更ニ高札
ヲ以テ交換スルヲ得ス

第十章亡産人ヨリ手形又ハ商品ヲ取戻
ス事

此章ハ左ノ物件ヲ亡産人ニ請求シ取戻スコト
ノ權利ヲ説明ス

第一亡産人ニ渡シ又ハ送りタル商品若クハ

手形類ノ目的他ニ在リテ直ニ亡産人ノ所有物トナラサル者(第五百七十四條)

第二賣拂ノ為メニ預ケ置タル商品(第五百七十五條)

第三亡産人ニ賣拂ヒ未タ其代價ヲ受取ラサル商品(第五百七十六條)

是ナリ又未タ亡産人ニ渡サス及ヒ送出サル商品ノ賣至ニ差留メノ権利アルヲヲ説明ス

(第五百七十七條)

第一 商品及ヒ手形類ヲ取戻スコト

第五百七十四條 ○ 甲商人ヨリ乙商人ニ商品又ハ手形類ヲ渡シ未タ其代價ヲ受取ラサル内乙商人亡産ヲ為シ仍ホ該品ヲ所持スル時ハ甲商人之ヲ取戻スノ権利ヲ有ス但シ其渡シタル手形ハ之ヲ現金ニ替へ甲商人ノ為メニ仕拂ヲ為スヲ乙商人ニ委託シタル場合ニ限ルヘシ
蓋シ手形ヲ與ヘタル甲商人ハ決シテ其所有權ヲ讓リタルニ非ス唯之ヲ委託シタルニ過キス故ニ受託者亡産ヲ公告セラレシ片ハ其手形ヲ資金中ニ算入シテ真正所有主ノ權ヲ奪ハント

スルハ其理アラサルナリ

然レトモ此手形ハ亡産ヲ為セトキ仍出之ヲ
拂ハサルコトヲ要ス若シ仕拂ヲ為シタル片ハ
甲商人ハ亡産人ノ無質債主ノ列ニ入ルニ過キ
ス而テ其金額ハ亡産資金ノ中ニ算入セラルハ
シ

又亡産ノ際此商品及ヒ手形類ハ其儘亡産人ノ
所有スルコトヲ要ス若シ之ヲ以テ他ノ物品ヲ
購求セシ片ハ甲商人乃チ委託者ハ此物品ニ對
シテハ毫モ權利ヲ有セス而テ取戻権ハ全ク消

滅スヘシ

但シ商品及ヒ手形ハ必シモ亡産人ノ家中ニ存
在スルヲ要セス唯亡産人未々之ヲ他人ニ譲リ
渡サバルヲ以テ足レリトス

註○現金ヲ請取ルノ通常委任ヲ為シテ物
件ヲ渡セシ者受託人亡産ノ場合ニ當リ其物
件受託人ノ手ニアルトキハ勿論受託人ヨリ
復タ他人ニ委託シアルモ之ヲ取戻スコトヲ
得ヘシ(訴訟局千八百十二年二月五日千八百

四十九年四月二十九日ノ決議)

若シ亡産人不規則ナル裏書ヲ為シテ手形ヲ運
轉シタルトキハ其運轉ハ無効ニシテ單ニ委託
セシニ過キサルヲ以テ之カ取戻ヲ許サ、ルヘ
カラス

註○千八百二十二年十一月十八日大審院ノ
決議ヲ見ルヘシ

取戻権ハ所有権ノ結果ニ過キサルヲ以テ所有
権消滅セシ以上ハ取戻権モ亦消滅スヘシ故ニ
甲商人カ乙商人ニ手形ヲ渡スノ目的自己ノ為
メニ其手形ヲ金ニ替へ預カリ置カシムルニ非

ス又他ノ費途ヲ指定セシテ全ク受託人ノ自
由支出ヲ許シ他ノ預リ金ト差引ヲ為スノ約定
ニ出ルトキハ此手形ハ差引算用ト名クルモノ
ナリ(一)而テ此算用ニ入ルモノハ之ヲ取戻スコ
トヲ得ス何トナレハ此場合ニアリテ手形ヲ與
ヘシ目的ハ其所有権ヲ讓渡スニアレハナリ(二)
註(一)差引算用ノ語タル左ノ如ク解釋ヲ下ス
ヘシ例ヘハ甲商人ヨリ乙商人ニ現金又ハ手
形等ヲ渡スモ其仕拂道ヲ指示セシテ全ク
乙者ノ所有ニ歸シ自由ニ之ヲ償費スルヲ

許ルス乙商人ハ之カ為メニ必シモ代價ニ充
ツヘキ物件ヲ甲商人ニ渡シ置クニ及ハス簡
單ニ謂ヘハ甲乙互ニ信用ヲ主トシ唯取列ノ
結算ヲ為スニ際シ互ニ過不足ヲ算定スルニ
止マルモノトス(デラマール及ヒルポアトガアン
タル書第二卷四百八十九号)

(二)例ヘハ差列算用ヲ以テ銀行ニ高事手形ヲ
納メ其代リニ何時ニテモ銀行ヨリ之ニ對ス
ル現金ヲ受取り得ヘキ契約ヲ為スモノアラ
シニ其銀行亡産ヲ為シタルトキハ手形ノ金

額ヲ裏書ノ順次ニ從フテ取戻シ又ハ辨償セ
シメントスルモ得ヘカラス(千八百五十一年
一月十二日巴里裁判院ノ決議)

第二〇賣拂ノ為メニ附託シタル商品ヲ取戻ス
コト

第五百七十五條〇法律ニ於テ甲所有者ヨリ賣
拂ヲ託シ受託者亡産ニ係リ未タ其商品ヲ他物
ニ交換セサルトキハ其全部又ハ幾分ヲ取戻ス
コトヲ許ス

蓋シ商品ヲ附託シタル者ハ其所有權ヲ拋棄セ

ス故ニ亡産人ノ債主等ノ利益ノ為メニ其所有
權ヲ剝奪スヘキ理ナキハ此場合ニ於テモ亦明
カナリ

然レトモ商品既ニ有形ノ儘ナラス即チ其性質
ヲ変更シ他ノ物品トナリタルトキハ例ヘハ穀
物ヲ粉ト為シ板ヲ器具ニ作り羊毛ヲ羅紗ニ織
ルカ如シ取戻ヲ為スノ道ナシ蓋シ商品其性質
ヲ変スルトモ所有權ヲ証明スルノ道ナキニハ
非スト雖モ立法者ハ此証據ヲ立ツルノ困難ナ
ルカ為メニ多クハ遲延ヲ生シ且ツ種々ノ争論
ヲ生センコトヲ恐レタルナリ

商品ヲ賣拂ヒタルモ未タ買得者ヨリ亡産人ニ
現金ヲ拂ハス又他ノ計算ト差列算用ヲモ為サ
、ルトキハ夫レ尅ノ金額ハ商品附託人ニ取戻
スコトヲ得ヘシ

此ニ代價ヲ取戻スノ語ヲ説明スルヲ要用トス
或曰立法者ハ商品其預リ至即チ代理者ノ手ヲ
離ルモ其代價ノ仍ホ存スルアリト推測セリ
然レトモ此推測ニ相當ノ理由ナキカ如シ蓋シ
其代價ハ買得者ノ手ニ在リテ其借金タルノ性

質ヲ帶ルヲ以テナリ而テ亡産資金中ニ存スル者ハ唯買得者ニ對スル賣掛金アルニ過キス則チ此賣掛金ノ手形ハ商品ノ舊所有主ナル委託者カ之ヲ受託者ニ代リテ直ニ領收スルヲ得ヘシ何トナレハ委託者ノ名ヲ以テ買得人ト條約ヲ為セハナリ(一)又此故ニ該商品ニ付テハ亡産資金ノ債主ニ先チテ特權ヲ有スルナリ

註(一)若シ被託人ノ名ヲ以テ為シタルトキハ被託人則チ買得者ニ對シテ直接ノ債主トナル

然レトモ買得者若シ現金ヲ以テ代價ヲ亡産人ニ拂ヒタル片ハ買得者ハ負債ヲ消却シタルモノナリ而テ代金已ニ亡産人ノ手ニ入タル以上ハ其金ヲ見分ケテ追徴セントスルモ得ヘカラズ買得者ニ向テ訴訟權ヲ有セサル委託人ハ之ニ代ルニ被託人ノ亡産ニ對シテ通常債主同一ノ權利ヲ有スヘシ
買得者ト被託人トノ間ニ現價ヲ授受シタルトキハ即チ若シ買得者被託人タル亡産人ニ手形又ハ他ノ物件ヲ以テ直ニ仕拂ヲ為シタルトキ

ハ委託人ハ此條約ニ對シ故障ヲ述フルヲ得
不買得者現金ヲ以テ仕拂ヲ為セシヨリ生スル
效力ハ差引算用ヲ以テ仕拂ヲ為セシモ亦之ヲ
生スヘシ則チ賣拂主ニシテ代價ヲ受取ルヘキ
權利ヲ有スル被託人ハ賣拂ヲ為セシ時ニ當リ
仍ホ買得者ニ對シ別ニ負債アリ而テ商品ノ代
價ヲ以テ負債人タルノ義務ヲ免カルヘシ何
トナレハ其代價ハ買得者ノ利益ノ為メニ賣方
ナル被託人ノ買得者ニ負フ所ノ額ト差引算用
ヲ為セハナリ故ニ買得者ハ既ニ負債人タラサ
ルヲ以テ委託人ハ被託人ノ亡産ニ對シテ通常
債主同一ノ權ヲ有スルニ至ル

第三〇賣拂ヲ為シテ未タ其代價ヲ受取ラサル
商品ノ取戻

第五百七十六條〇商品ヲ亡産人ニ賣渡シ賣渡
人未タ其代價ヲ受取ラサルトキハ其商品ヲ取
戻スコトヲ得(一)蓋シ我カ賣拂タル物品ニ相違
ナキヲ証明スルヲ要ス且ツ買得者即チ亡産人
又ハ亡産人ノ為メニ賣拂ヲ委託セラレタル者
ノ自由ニ為シ得ヘキ場所ニ入ラサル内ニ限ル

モノトス(二)

註(一)和約ヲ為セシ後ニ於ケルモ亦然リ(千八百五十七年二月二十七日巴里裁判院ノ決議)
(二)予ハ第五百五十條ニ於テ動産取戻権ハ買得者亡産ノ場合ニ於テハ成立セサルコトヲ見タリ蓋シ第五百五十條ハ動産ハ亡産人ノ家ニ入りタルモノト見做シ第五百七十六條ハ商品未タ亡産人ノ倉庫ニ入ラサルモノト見做シテ立論セシナリ若シ既ニ倉庫ニ入りタル片ハ取戻権ハ同ク消滅スヘシ

右ノ成規ハ種々ノ議論ヲ生出シ裁判所ノ決議中ニ於テ甚ク要用ナルモノ多シ

山林伐採區域ハ買得者ノ倉庫ト見做スヘキヤ否ノ問題ニ付テ然リト決セリ(千八百五十二年八月四日大審院ノ決議千八百四十九年一月十二日アミアン裁判院ノ決議)

然レトモ山林伐採區域ヲ以テ買得者ノ倉庫ト見做サザルコトヲ山林伐採區域帳ニ登記スルコトヲ許ス(千八百四十七年十一月二日アミアン裁判院千八百四十九年一月三日カ

エレ裁判院千八百六十七年四月二十三日巴里裁判院等ノ決議

山林ノ材木ハ買受人賣渡人ヨリ借受タル山林ノ地内ニ在リテモ己ニ其材木ヲ炭ト爲シタル片ハ賣渡人之ヲ取戻スノ權ヲ有セヌ(千八百四十五年六月九日大審院ノ決議)

炭トナス爲メニ材木ヲ賣拂ヒタル場合ニ在テハ買得者又ハ其代理人之ヲ燒ク爲メニ賣拂場所ニ来リ双方立合ヒテ繩ヲ水ニ纏ヒタル上ニ非レハ引渡ノ十分セシモノトセヌ若

シ其後ニ於テ買受人之産ヲ公告セラレタル片ハ其材木ハ之産ノ資金中ニ入ル可キモノトス(千八百五十二年一月二十八日巴里裁判院ノ決議)

己ニ賣渡ヲ爲シ未タ其代價ヲ受取ラサル高品ハ其買得者タル之産人其高品到着前ニ債主ニ書入トナシ考メニ債主ノ倉庫ニ入りタルトキハ最初ノ賣渡人ハ取戻權ヲ施行スルヲ得ヌ(千八百五十三年二月二十七日訴訟局ノ決議)

甲高ヨリ乙高ノ請ニ應シ高品ヲ送り出シ後
チ乙高亡産スルモ其高品ハ之ヲ受取り之ヲ
運送スルヲ任シタル仲買人ニ名宛ニタル
モノナレハ其倉庫ニ入ル、モ之ヲ取戻スコ
トヲ得ヘシ何トナレハ此倉庫ハ亡産人ノ倉
庫同様ニ見做スヲ得サレハナリ(千八百四十
八年三月七日訴訟局ノ決議及ヒ千八百二十
六年十二月十九日都路復裁判院ノ決議)
メツ裁判院ノ決議ニ曰器械師製造家ノ為メ
ニ其製造所ニ器械ヲ据付ルコトヲ請合ヒタ

ル片ハ運轉スル迄ニ落成セサル間ハ買得者
ノ倉庫内ニ入りタルモノト見做スヘカラス
蓋シ其院ノ説ニ器械ハ種々ノ部分ヲ以テ全
躰ヲ為スモノニシテ其買賣契約ハ一部分ツ
、之ヲ為スニアラス全躰ノ落成ヲ以テ賣買
スヘキモノタリ(千八百五十六年六月三日ノ
決議)

高品買得者ノ倉庫ニ入りタル片ハ賣主之ヲ取
戻スコトヲ得スレテ我カ為メニハ既ニ失フタ
ルモノト見做サバルヲ得ス何トナレハ何時他

人ノ買フ所トナルヤ計ルヘカラサレハナリ而
テ其商品ハ買得者他人ノ信用ヲ得ルノ具トナ
ル故ニ若シ賣主之ヲ取戻シ得ルト為ス片ハ人
々商家ニアル物品ニ舟誤ラル、_一アルヲ以テ
信用上ニ妨害ヲ生スルノ恐アリ

商品到着前ト虽モ買得人左ノ方法ニ從テ已ニ
賣拂ヒタルトキハ賣渡人ハ之ヲ取戻ス_一ヲ得
ス

第一詐偽ナキ_一第二差出人ノ署名セシ代價付
(一)及ヒ積荷目録又ハ運送狀ヲ以テスルコト但
ニ此第一第二ノ方法ハ必要ナリ

註○法律ハ買得人ノ署名セシ代價付ヲ以テ
賣渡スコトヲ謂スシテ特ニ最初ノ賣渡人ノ
署名セシ代價付ヲ必要トセリ

商品取戻ヲ得タル場合ニ於テハ取戻人ハ已ニ
亡産人ヨリ請取リタル内金及ヒ運送賃仲買人
ノ手数料保険料其他之ニ類スル費用ノ亡産人
ニ於テ取替タル金高_一ニ自ラ拂フヘキ金高ヲ
亡産資金ニ納メサレハカラス(書式第二百十八
号ヲ見ルベシ)○取戻ハ未_一テ代價ヲ請取ラサル

賣渡人ニ亡産資金ノ減少ヲ顧ミシテ付與セラレタル恩惠ナルカ故ニ此恩惠ヲ得タル賣渡人ハ右等ノ入費ハ勿論之ヲ亡産資金ニ償却セサルヘカラス

未タ代價ヲ請取ラサル賣渡人ニ付與セシ權利ノ性質ハ一往疑惑ヲ生シ易シ蓋シ賣渡ノ結果ト普通ノ定則トニ據レハ物品ノ所有權ハ未タ現品ヲ引渡ササルモ又ハ代金ヲ請取ラサルモ唯賣買ノ契約ヲ以テ之ヲ移轉スルヲ得ヘシ(拿破倫法典第千百三十八條及ヒ第千五百八十三

條)故ニ賣渡人賣買ノ契約ニ依テ所有權ヲ移轉セシ上ハ何ノ理由ニ據テ所有權ニ屬シタル取戻權ヲ有スル歟ノ疑問ヲ生スヘシ然レトモ一方ニ於テハ拿破倫法典第千百八十四條及ヒ第千六百五十四條ニ於テ未タ代價ヲ請取ラサル賣渡人ニ代價ヲ拂ハサルノ故ヲ以テ商品取戻ヲ請求スルヲ許シタルニ據リ學士ハ若シ賣渡人ハ第五百七十六條ニ掲タル取戻權ノ外ニ解約權ヲ有スル哉ヲ論究セリ

然レトモ一般ノ論決ニ曰高法第五百七十六條

ニ依リ付與セシ權利ハ 解約權ト混淆スルモノ
ナリト

註 ○ グラヴァールド 六百八十四枚以下及ヴエラシ
トシ人 並 第十六卷二百四号并三百八十号
同ッ 第十九卷百二十号ヲ見ルヘシ

所有權ハ唯賣買ノ契約ニヨリテ移轉スルモノ
ニシテ必シモ物品ノ引渡及ヒ代價ノ拂済ヲ要
セサル者ナレハ未タ代金ヲ受ケサル賣渡人物
品ヲ取戻スヲ得ル所以ハ他ニアラズ 我利益ノ
為メニ賣買ノ解約ヲ為スニヨルナリ 抑賣渡人

若シ拿破倫法典第千八百八十四條及ヒ第千六百
五十四條ニ基テ更ニ解約ヲ要求シ得ルト為ス
トキハ第百七十六條ニ於テ與ヘタル權利及
ヒ其權利ヲ施行スル區域ハ不用ニ屬スヘシト
謂ヘル論者アリ

第五百七十七條 ○ 賣渡人ヨリ亡産人ニ又ハ亡
産人ノ計算ノ為メニ他人ニ未タ商品ヲ引渡サ
ス又ハ未タ送致セザルコトアルベシ (一) 此場合
ニ於テハ賣渡人未タ代金ヲ受取ラサルトキハ
假令代金受取ノ期限ヲ定メタル片ト雖モ商品

ヲ取戻スコトヲ得ベシ(拿破倫法典第千六百五十四條ヲ参考スヘシ)

註○賣買ノ際双方ノ間ニ契約ヲ為シ商品ハ買得人ヨリ倉賃ヲ拂ヒ賣主ノ家ニ預ケ置クヘシトスルモ此契約ヲ以テ直ニ賣渡人ヨリ買主ニ引渡ヲ實施セシモノト見做スヲ得ス

(商法第百七十六條ノ論理拿破倫法典第千六百十二條及ヒ第千六百十三條千八百五十九年一月二十四日大審院ノ決議又千八百四十七年五月四日路安裁判院ノ決議ヲ見ルベシ)

第五百七十八條○賣渡人商品ヲ取戻シ又ハ差押フルノ權利ヲ有スル中ハ管賤人ハ主任判事ノ許可ヲ得テ賣渡人ト亡産人トノ間ニ結約シタル代價ヲ賣渡人ニ拂フニ於テハ商品ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得ベシ

註○第五百七十八條ニ買得人代價ヲ拂ハサル前ニ亡産ヲ公告セシコトノミヲ以テ當然賣渡ノ効ヲ解約スヘカラサルヲ証明ス(大審院千八百五十八年二月二十三日ノ決議ヲ參

省スヘシ

第五百七十九條○取戻ヲ請求スル者アル片ハ
管財人ハ主任判事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ承諾ス
ルノ權利ヲ有ス(書式第二百十九号ヲ見ルベシ)
○若シ争論アレハ裁判所ハ主任判事ノ意見ヲ
聞キタル後宣告ヲ下スヘシ

第五百七十九條ニ裁判所ハ主任判事ノ意見ヲ
聞キタル後宣告スト謂ヘルニ依テ見ルトキハ
凡テ取戻請求ヨリ生スル争ハ高事裁判所ニ於
テ判決スヘキカ如シト雖モ一般ノ學士ハ若シ
其取戻民事ニ源由スルトキハ民事裁判所ノ權
内ナリト論定セリ

註○レノ子ノ書名并五百四十枚ブラヴールド六
百八十枚パルドス二千二百七十一枚及ヒ千
八百四十三年五月三十一日メツツ裁判院ノ決
議

第十一章 亡産ノ事ニ付テ為シタル裁判

^申 渡ヲ取消サン₁ヲ求ル方法

此章ニハ第一亡産ノ事ニ付テ為シタル裁判^申 渡ニ對スル出訴期限(第五百八十條及ヒ第五百八十二條)第二抗禦控訴及破棄ニ付スヘカラサル裁判申渡(第五百八十三條)ヲ指示ス○是ヨリ以下ニ説明スル成規ハ亡産ノ手續及ヒ決算ヲ速了セシムル₁ヲ目的ト為ス

第五百八十條及ヒ第五百八十一條○亡産ノ公告又ハ裁判^申 渡ニ依テ生シタル支償謝絶時日ヲ改定セントスル債主ノ請求ハ債主ノ検査ヲ請ヒ誓言ヲ為スノ期限内ニ非サレハ受理セス此期限ヲ過ル片ハ支償謝絶ノ時日ハ確定シテ動カス可カラサル者トス(高法第五百八十一條)蓋シ満期ヲ証スル所ノ公正書類アルニ非サレハ期限ヲ過タリト認ル₁ヲ得ス又検査了タリト認ル₁ヲ得ス此公正書類ハ主任判事ノ編成シタル調書ニシテ検査全了ヲ記スルモノナリ但シ誓言ノ為メニ第四百九十七條ニ於テ許シタル延期ハ此限ニ在ラス

註○第四百九十七條及こ第五百八十一條ニ
依レハ裁判申渡ヲ以テ既決セシ亡産ノ時日
ノ改定ヲ請求スル債主ノ權利ハ主任判事ニ
申告セシ最尾ノ負債検査ヲ了タル日ヨリ八
日ヲ過ルニ非カレハ消滅セサルナリ(千八百
四十二年一月四日訴訟局及千八百六十年五
月八日^{訴訟局}決議)

然レトモ貸金ニ付テ起リタル争ヒ全ク判決消
ニ至ラサレハ貸金ノ検査ハ未タ結了セス高法
第五百八十一條ノ期限ハ盡キスト断定スヘカ

ラス如此論旨ハ亡産ノ處分ヲ速了スルヲ目的
トナス所ノ千八百三十八年五月二十八日ノ法
律ノ精神及こ法文ニ反對セリ

右ノ目的ヲ達スル為メニ第五百八十一條ハ亡
産時日ニ関スル請求ヲ受理スヘキ期限ヲ定メ
タリ

註○千八百五十八年十二月二十一日訴訟局
ノ決議ヲ見ルヘシ

亡産公告ノ裁判申渡及こ支償謝絶ノ時日ヲ亡
産人ノ定タル日ヨリ前ニ改定セル裁判申渡ニ

對シテ亡産人ハ八日以内ニ抗禦ヲ為スルヲ得
ヘシ書式第二百二十号又關係人ハ一月間ニ抗
禦ヲ為スルヲ得ヘシ書式第二百二十一号但シ
里程ノ遠近ニ拘ラス立法者此猶豫ヲ與ヘサル
者ハ出訴ノ道ヲ確定ノ期限ニ減縮スルノ目的
ニ出ルナリ

此期限ハ亡産公告申渡ニ對スルモ支償謝絶ノ
時日ヲ亡産人ノ定タルヨリ前ニ改定スル申渡
ニ對スルモ第四百四十二條ニ從テ揭示ヲ為シ
新聞紙ニ掲載セシ日ヨリ起算スル者トス此期
限ヲ起算スルニ付テ其裁判申渡ハ本人ニ報告
セラレシトテ要スルノ成規ナシ

註〇千八百五十七年十一月四日大審院ノ決
議

亡産公告ノ申渡又ハ支償謝絶時日ノ裁判申渡
ノ要旨ヲ掲載セシ新聞紙ヲ登記帳ニ記入セス
又ハ法律ノ期限内ニ記入セサルトキト雖モ前
項ノ如ク起算スヘシ一第五百八十條及ヒ第四
百四十二條ニ於テ第四百十二條(現今千八百六十
七年ノ七月二十四日ノ法律第五十六條)ニ準據

スル所ハ單ニ書式ノ事ニ止リテ無効ノ事ニ及
ハス

註(一)千八百五十七年十一月四日大審院ノ決
議

立法者亡産人ニ與フル抗禦ノ期限ハ關係人ニ
與フル同期限ヨリ短シ何トナレハ亡産人ハ宣
告ヲ為ス裁判所々在ノ地ニ住居ニ關係人ハ遠
隔ノ地ニ住スル者アレハナリ

法律ハ抗禦ノ事ノミヲ掲クト雖モ控訴權モ亦
第五百八十一條ニ謂ヘル裁判申渡ニ關係アル
人々ニ屬スルハ勿論ナリ實ニ第五百八十三條

ハ右ノ裁判申渡ヲ控訴ヲ禁セラレタル裁判申
渡ノ内ニ加ヘス

註○定期内ニ抗禦ヲ為ス_テ忘却セシ他人
債主ニアラサルハ更ニ關係人トシテ抗禦ヲ
關係人ヲ云フ

申立ツル_テ得ス(千八百二十四年十一月十
日大審院ノ決議及ヒ千八百五十八年三月十
七日巴里裁判院ノ決議)

論者ハ第五百八十條ト第五百八十一條ノ間ニ
矛盾アル_テヲ癸見セリ蓋シ第五百八十條ハ亡

産時日ヲ定ムル判決ニ抗禦スルヲニ付關係人ニ揭示及ヒ新聞紙掲載ノ日ヨリ僅ニ一月ノ期限ヲ與ヘタリ第五百八十一條ハ債主此初審裁判ニ抗禦ヲ為スノ權利ハ負債ノ検査及ヒ誓言ノ期限ノ満期後ニ至ラサレハ消滅セストス然ルトキハ一月以上ニ至ラサルヲ得ナルナリ(高法第四百四十二條及ヒ第四百九十二條ヲ見ルベシ)

或説ニ曰第五百八十一條ニ「總テ關係アル他人トアルハ亡産人ノ債主ニ非スレテ他ニ契約ヲ為シタル者法律ニヨリテ其契約ヲ無効ニセラルコトヲ防ク為メニ抗禦ヲ為ス人々ヲ指示シ第五百八十一條ハ單ニ債主ヲ指シタルナリ

註〇レ一子イ人名並書名五百四十五枚以下ヲ見

ルヘシ又千八百四十三年六月二十六日及ヒ千八百四十四年七月十六日カエシ裁判院千八百五十六年六月三十日ボルド一裁判院及ヒ千八百五十八年八月二十八日都路須裁判院千八百六十年四月十九日コルマール裁判院ノ決議ヲ見ルベシ但コルマール裁判院ノ

決議ハ千八百六十一年四月二十三日ニ破毀
セラレタリ

又一説ニ曰第五百八十條ハ債主共ニ債主タラ
サル他人ニ施行スヘシ之ヲ主張スル者曰第五
百八十條ノ期限内ハ債主ハ自由ニ請求ヲ為ス
トヲ得ヘシ然レトモ第五百八十一條ハ特別ノ
場合ニ限り債主ニ對シテ第五百八十條ノ期限
ヲ縮少セシモノニシテ債主ニ對スル此特別ノ
場合ハ検査及ヒ誓言ノ處分一月内ニ結了セシ
片ヲ謂フ此論旨ニ於テハ検査及ヒ誓言ノ結了

セシ上ハ假令第五百八十條ニ定タル期月ニ満
サルモ債主ノ抗禦ヲ受理スヘカラス(一)予ハ此
説ヲ可トス

註(一)ブラヴァールド六百九十枚以下及ヒ口又
一アール第二卷三百七十八枚以下ヲ見ルヘ
シ

第五百八十二條ノ亡産ノ事ニ關スル裁判申渡
ニ對スル控訴期限ハ報知ヲ受ケタル日ヨリ十
五日以内ト為ス

註○承^現任所ニ報知ノ達セシ日ヲ謂裁判管轄時

ニ違ヒシ日ノミヲ以テ算セズ(千八百五十六年一月三十一日巴里裁判ノ決議)

此正當ナル期限(一)ハ本人ノ住所裁判所所在ノ

地ヲ隔ルル五ミリアメートル二大約十里トル

ノ延期ヲ與フヘシ凡法律ニ於テ延期ヲ與フル

ハ唯此ノミ(二)

註(一)千八百五十一年二月二十六日レニ又裁

判院千八百五十一年五月十日アミアン裁判

院ノ決議

(二)千八百四十四年十二月十七日カエニ裁判

院ノ決議〇五ミリアメートル以上ノ端數ノ

里程ニ就テハ延期ヲ與フヘカラス(千八百五

十七年七月一日巴里裁判院ノ決議)

然レトモ此十五日ノ特別延期ハ亡産事件ニ関

スル裁判申渡ニ對スルノ外用フルヲ得ス

右亡産事件ニ関スト謂ヘル語ヲ解スルヲ甚難

シ例ヘハ左ノ如キ事件ハ亡産ニ関スト謂サル

トヲ得ス

亡産ヲ公告シ(一)其時日ヲ決定シ(第四百四十一條

及、第四百四十一條)又ハ亡産公告ノ請求ヲ破

減スル裁判申渡支償謝絶ノ後若クハ謝絶前
日間ニ亡産人ノ為セシ仕拂及ヒ質入又ハ與ヘ
タル特權ノ効カラ定ムル裁判申渡(第四百十
六條第四百四十七條第四百四十八條及ヒ第四
百四十九條)等ニ係ル負債ノ認可(第四百九十
八條和約ノ許可(第五百十三條及ヒ第五百十五
條)管財人ノ決算(第五百十九條)動産ニ對シテ出
訴シタル特權(第五百五十一條)亡産人ノ婦ノ權
利(第五百五十七條及ヒ第五百五十八條)商法第
五百七十四條第五百七十五條及ヒ第五百七十
六條ニ掲クル場合ニ於テノ取戻權(第五百七十
九條)等ニ就テ宣告セシ裁判申渡(二)

註(一)抗訴ノ期限ハ裁判申渡ヲ報知セシ日ヨ
リ起算シテ通常裁判ト欠席裁判トニ拘ラス
千八百五十一年三月十日訴訟局千八百五十
一年六月二十三日大審院千八百五十一年五
月十九日并ニ千八百五十八年四月二十二日
巴里裁判院及ヒ千八百五十三年五月十四日
ツルエー裁判院ノ決議○然レトモポルドー
裁判院ハ本人欠席ニテ裁判申渡ヲ為セシ片

ハ抗訴期限ノ起算ハ訴訟法第四百四十三條ノ規則ニ準ヰテ抗禦ヲ受理スヘカラサルノ日ヨリ起算スヘシト為ス(千八百五十九年四月六日ノ決議)○予ハツイーエール裁判院ノ決議ノ旨趣ヲ採擇セシ

第五百八十二條ニ依テ抗禦ノ道ヲ以テ亡産公告ノ申渡ヲ抗禦シ得ル者ハ此道ヲ差置キ直キニ控訴ヲ為スヲ得ベシ(千八百四十四年三月十日モントペリエール裁判院ノ決議)實ニ高法ハ訴訟法通常ノ主義ニ肩テ取除ヲ設

ルナリ

然レトモ控訴期限ノ起算ハ數所ノ裁判所ニテ決セシ如ク抗禦ヲ受理スヘカラサル期限ト同日ト為スハ非ナリ(前ニ掲クル千八百四十四年三月十日モントペリエール裁判院ノ決議及ヒ千八百五十年二月九日アミアン裁判院英ニ千八百五十年五月六日ヅイーエール裁判院ノ決議)然レトモ告知ノ日ト同日ナリトス(第五百八十二條第一項千八百五十一年六月二十三日大審院千八百五十八年四月二十

二日巴里裁判院千八百六十年八月二十八日
里温裁判院及千八百六十一年五月十六日
都路須裁判院ノ決議

一方ニ於テハ債主負債人ノ亡産公告ヲ請求
セシモ裁判所ニ於テ之ヲ抛棄セシ片ハ負債
人ハ其裁判申渡ヲ債主ニ告知シ控訴期限ヲ
起算セシムルヲ要ス(千八百六十年七月四
日ホアキエ)裁判院ノ決議

又抗訴ハ亡産公告ヲ請求セシ債主ニ對シ及
ビ債主ノ總代タル管財人ニ對シテ禁止セラ
ル、モノトス千八百六十二年六月三十日巴
里裁判院ノ決議

(二)千八百四十年四月一日英千八百四十二年
八月十九日大審院千八百四十九年十二月八
日巴里裁判院ノ決議及千八百六十三年三
月五日大審院ノ決議ヲ見ルヘシ

大審院ノ説ニ據レハ第五百八十二條ノ成規ハ
亡産ノ事件ヨリ生スル爭論ニシテ其管理ト特
別ノ訴訟トニ關スルモノニ非サレハ之ヲ實行
スルヲ得ス(千八百五十三年五月十日大審院ノ

決議故ニ亡産人ニ對シ他人ノ起シタル所有權
ノ問題ニ付タル裁判申渡ニ該成規ヲ施スルヲ
得ス(千八百四十年五月十日大審院ノ決議)又亡
産公告及ヒ支償謝絶前ニ為セシ債主ト負債人
ノ契約ヲ無効トナスノ請求ニ付タル裁判申渡
ニモ之ヲ施スコトヲ得ス(千八百四十九年六月
二十日訴訟局ノ決議)又一方ニ在テハ和約ノ事
ニ關シ和約人ト債主中ノ一員トノ間ニ起リタ
ル争ニ付タル裁判申渡(千八百五十二年七月二
十七日訴訟局ノ決議)及ヒ和約ノ許可後ニ亡産
人ト債主ノ間ニ起ル争論ニ付タル裁判申渡(千
八百五十三年五月十日大審院ノ決議)ニモ之ヲ
施スコトヲ得ス

亡産事件ニ係ル裁判申渡ニ對スル控訴ニ付第
五百八十二條ニ於テ定メタル十五日ノ期限ハ
高事裁判所ノ裁判申渡ノミナラス亡産處分中
民事裁判所權内ノ事件ヲ生シテ同裁判所ニ於
テ宣告セシ判決ニ對シテモ同一ナルヤヲ問フ
者アリ譬ハハ民事裁判所ハ場合ニヨリテハ貸
金検査ノ際ニ起ル争ヒヲ判決スルコトアリ第

五百條ヲ見ルベシ而テ此判決ニ對スル控訴ノ
期限ハ二ヶ月即チ通常ノ控訴期限ナルヤ又十
五日ナルヤヲ知ルニ在リ
數名ノ學士ハ唯二ヶ月ノ期限ヲ施行スベシト
ス其說ニ曰一般ノ規則ニ於テ甲裁判所我権限
外ナルヲ以テ其事件ヲ乙裁判所ニ回送セシキ
ハ其裁判申渡差ニ結果ハ本訴ノ起リタル模様
ノ如何ニ拘ラズ然テ乙裁判所ニ於テ行フ所ノ
規則ニ從ハサルヲ得ス

註〇レ一子イ五百五十八枚以下口ヌ一アール第

二卷三百八十五枚以下及ヒ千八百四十年四
月一日大審院千八百四十二年五月四日巴里
裁判院千八百四十四年七月三十日カエニ裁
判院千八百四十四年六月二十七日ボルドー
裁判院ノ決議ヲ見ルヘシ

是千八百六十八年四月六日大審院ニ於テ公告
後ニ亡産人ノ承諾セシ不動産ノ賣渡ニ對スル
管財人ノ抗禦ニ付テ判決セシ所ナリ其判決ニ
曰々高法第五百八十二條ニ亡産事件ニ關スル
裁判申渡ニ對スル控訴期限ハ報告ノ日ヨリ十

五日以内ト為スハ實ニ普通法ニ及スル特別過
酷ノ成規ト謂フヘシ故ニ立法家カ指示セル法
規ヲ毫モ超過セサルニ注意セサルヘカラス○
千八百三十八年五月二十八日ノ法律ニ依テ改
正セシ高法第三卷ニ於テ亡産人ノ處分ヲ速了
スル為メニ設ケタル特別訴訟ニ屬スル此条ノ
精神及ヒ區域ハ同日ノ法律ニ依テ改正セシ商
法第六百三十五條ニ於テ之ヲ確定セリ蓋シ該
條ハ上ニ掲クル三卷ニ準據シ亡産ニ關スル事
件ハ總テ商事裁判所ノ權内ニ屬セリ○此兩條
ニ準據スレハ第五百八十二條ニ依テ設ケタル
控訴期限ハ商事裁判所ニ於テ第六百三十五條
ニ依テ附託セラレタル特別ノ權限ヲ以テ為セ
シ裁判申渡ニ施行スヘシ○民事裁判所ノ裁判
申渡ニ付テハ同一ノ處分ヲ為スヘカラス蓋シ
民事ノ裁判申渡ハ亡産ニ關スル片ト雖モ亡産
處分外ニ置キ亡産事件ニ於テ為セシモノト見
做ス下ヲ得サレハナリ○千八百三十八年ノ法
律ハ亡産ニ付テ設ケタル判事ノ為メニ特別ニ
速成スヘキ訴訟法ヲ設ケタルモ之ヲ以テ民事

裁判所ノ訴訟法ヲ変更セシメテ○同法律ヲ
以テ商法中ニ追加シタル第五百條ニ於テ民事
裁判所ノ判決スヘキ貸金ヲ假ニ認可スルヲ
同裁判所ニ許セシハ及テ立法者亡産處分ヲ速
了スヘキ此方法ヲ民事裁判所ニ用ヒシメ其事
實上ニ為セシ裁判申渡ハ普通法ニ準據スルモ
ノト為シ置キタルヲ見ルニ足ルベシ
又一方ノ論者ハ第五百八十二條ノ文字ハ一般
ノヲ指スモノニシテ彼此ノ區別ヲ為サズ故
ニ民事裁判所ニ於ケル裁判申渡控訴期限ト虽
モ亡産ノ事件ニ関スル一般ノ裁判申渡控訴ニ
付テ定メタル十五日ノ期限ニ準據セサルヘカ
ラス

註○ベーカー又氏ノ^{ケスチラシムスルレトフアイト}亡産論七十七枚及
千八百四十年六月二十六日レニ又裁判院千
八百六十六年五月九日ニ一ム裁判院ノ決議
第五百八十三條○法律ニ於テ左ニ掲クル裁判
申渡ハ抗禦控訴若クハ上告ノ方法ニ依テ之ヲ
出訴スルヲ許サズ

第一〇主任判事ノ奉任及ヒ交代管財人ノ奉任

及ニ退職ニ係ル裁判申渡

第二〇宥免状ノ請求及ニ亡産人並ニ家族扶助料ノ請求ニ管スル裁判申渡

第三〇亡産人ノ動産又ハ商品ヲ賣拂フコトヲ許ス裁判申渡

註〇第四百八十六條ノ第一項ニ動産及ニ商品賣拂ヲ管財人ニ許可スルコトヲ主任判事ノ權ニ屬スト謂ヘリ故ニ第五百八十三條ハ裁判申渡即チ裁判所ノ決議ノ下ヲ謂フモノトス蓋シ該條ハ主任判事ノ許可ヲ得テ賣拂

ヲ為シタル下ニ付關係人ヨリ裁判所ニ抗禦ヲ訴出タル場合ヲ指スナリ第五百八十三條ハ主任判事ニ依テ與ヘタル許可ヲ裁判所ニ於テ維持セシ場合ヲ指スナリ

第四〇和約ヲ為スニ付テ猶豫ヲ許ス裁判申渡及ニ証書ニ付テ爭アル債主ヲ假ニ債主中ニ加ハラシム下ノ裁判申渡

註〇此成規ハ爭ニ係ル債主假リ認許ノ後裁判所ニ於テ此後認許ニ拘ラス引續キ亡産ノ處分且和約ノ投票ヲ為サシムル下ヲ命シタ

ル裁判申渡ヲモ含蓄スベシ(千八百五十五年
十月十八日巴里裁判院ノ決議)

第五〇主任判事ノ権限内ニテ為シタル命令ニ
對シテ訴フルモノアリテ商事裁判所ニ於テ之
ヲ裁判セシ申渡

第五百八十三條ニ列記スル場合ニ付テ出訴ヲ
許サ、ルハ一ハ此成規ヲ施ス所ノ裁判申渡ハ
總テ行政處分及ヒ恩惠裁判權ノ決議ニ類近ス
レハナリ又一ニハ延滞ヲ避ル為メナリ

註〇レンヌ又裁判院ノ判決ニ第四百六十二條
ニ依テ管財人ニ與フル手當金額ヲ定ムル裁
判申渡ハ抗訴ヲ為スヲ得而テ此控訴ハ通
常ノ請求書ヲ以テ差出スヲ得ベシトス

第二卷 倒産

支償謝絶ノ實況ニ在ル者キアラサルヨリハ倒産ノ實況ニ入ルヲナシ蓋シ倒産ハ亡産ノ變化セシモノニ過サレハナリ

倒産ヲ分テ二種ト為ス通常倒産(第一章)詐偽倒産(第二章)是ナリ通常倒産ハ輕罪トシ詐偽倒産ハ重罪トス故ニ一ハ懲治ノ罰ヲ受ケ一ハ施體及ヒ加辱ノ刑ヲ受クヘシ予逐次ニ之ヲ説明セントス

商事裁判所ニテ亡産ヲ公告セサル前ト雖モ刑事裁判所ハ倒産罪ノ訴訟ヲ受理スルコトアルハ裁判事例ニ散見スル所ナリ(第六百三十六條ヲ見ルベシ)

第一章 通常倒産

法律ハ通常倒産ノ公告ヲ要スル場合ト(第五百八十五條)之ヲ公告スルヲ得ル場合トヲ區別セリ(第五百八十六條)

第五百八十五條○凡亡産ノ商人ハ左ニ列記スル場合ニ於テ通常倒産人タルノ公告ヲ受ク可シ

註○通常倒産ノ訴ヘテ受ケタル輕罪判事ハ
假令民事裁判所又ハ商事裁判所ニ反對ノ裁
判申渡ヲ為シタル事アリト雖モ被告人ノ商
人タルヲ及ヒ倒産ノ事實ヲ判定スルヲ得
ヘシ(千八百四十六年五月二十二日同二十三
日并千八百五十一年八月九日刑事局ノ決議)
第一○自身ノ費用又ハ家内ノ費用過度ナルノ
言渡アル片

第二○冒險ノ所為ニ因リ又ハ公債証書ノ相場
或ハ商品ノ相場ヲ立ルニ付テ邀幸ノ所為ニ因
リ夥多ノ金高ヲ失フタル片

第三○亡産ヲ防カントスルノ意ヲ以テ時價ヨ
リ下直ニ賣拂フ為メニ商品ヲ買入レタル時又
ハ同上ノ意ヲ以テ人ヨリ夥多ノ金高ヲ借入レ
又ハ手形ヲ發出シ又ハ其他資本ヲ得シカ為人
ニ産業ヲ衰敗スルニ至ラシメシ計策ヲ為シタ
ル片

註○事ニ係ル物件アリ之ニ他ノ物件ヲ増加
シテ改約スル如キハ衰敗ノ方法ト見做スベ
シ(千八百四十九年一月十七日レシス裁判院

ノ決議

第四〇亡産人支償謝絶ヲ為セシ後債主中ノ一人ニ其負債ヲ償ヒ債主全負ノ害ヲ為シタルトキ

或曰予ノ前ニ掲タル四ノ場合ニ於テハ第五百八十五條中ノ「公告ヲ受クベシ」ノ文字アルニ拘ラス裁判所ハ時ノ模様ニ因テ被訴人ニ擬付セラレタル事件ノ道德上ノ性質ヲ判定シ其所為ノ目的ノ有罪ト無罪トヲ決定スルヲ得ヘシ其論ニ曰第五百八十五條ニ掲クル場合ニ於テ

辨解ノ道ナキ亡産人ニ對シテ立法者命令法ヲ以テ通常倒産ノ刑ヲ法ニ掲ケ置タルナリ(レ一)子イ五百七十五條以下ヲ見ルヘシ

他ノ論者曰亡産人本條ニ掲クル犯罪アルトキハ判事再々其罪質ノ輕重ヲ鑒定スルノ權ヲ有セス唯其事實ノ確正ナル以上ハ直ニ刑ニ處セサル可カラス予ハ此說ヲ以テ前說ニ優ルモノトス(二)又亡産論七十三條ヲ見ルヘシ

第五百八十六條〇前條ニ及ビ左ニ掲クル場合ニ在テハ事實確正ナリト雖モ判事ノ見込ヲ以

テ亡産人ヲ罰シ又ハ罰セサルコトヲ得ヘシ(千
八百四十八年一月十四日ボルドー裁判院ノ決
議)

第一〇他人ノ計算ノ為メニ引當ノ物品ヲ受取ル
トナク其家産ニ比スレハ過分ナル義務ヲ負フ
タルトキ

第二〇亡産人ト債主トノ和約書ニ記シタル義務
ヲ行フトナクシテ再ヒ亡産ノ公告ヲ受タルト
キ

第三〇賤産共通法ヲ以テ結婚シ又ハ賤産分括法
ヲ以テ結婚シテ商法第六十九條及ヒ七十條ノ
規則ヲ準守セサルトキ

第四〇支償謝絶ノ日ヨリ三日内ニ第四百三十八
條及ヒ第四百三十九條ニ掲ル如ク書記局ニ其
届ヲ為サ・ル片又ハ届ヲ為スモ連帶義務者全
員ノ氏名ヲ記セサルトキ

第五〇亡産人相當ノ事故ナクシテ豫定ノ場合ニ
ニ期限ニ管賤人ノ面前ニ出頭セサル片又ハ宥
免状ヲ受クル後相當ノ事故ナクシテ裁判所ニ
出頭セサルトキ

第六〇七 産人簿冊ヲ設クルヲナク其ニ目錄ヲ詳細ニ記シタルヲナキトキ又ハ簿冊及ヒ目錄ノ不十分或ハ不規則ナルトキ又ハ簿冊及ヒ目錄ヲ以テ其貸高ト負債トノ真ノ模様ヲ知ル可カラサルトキ但シ亡産人ニ詐偽ナキトテ要ス法律ハ通常倒産ノ場合ニ於テハ從犯ヲ問ハストスル者アリ曰此倒産ノ成立ツ事件ハ必ス亡産人ニ屬セサルヘカラス故ニ從犯ハ全ク除クヘキ者トス(一)且通常又ハ詐偽倒産ノ刑ヲ定メタル刑法第四百二條ニ次ク第四百三條ハ詐偽倒産ノ從犯ノ事ヲ掲クルノミニシテ通常倒産ノ從犯ニ及ハス是ヲ以テ通常倒産ニ付テハ共犯ヲ問ハサル立法者ノ精神ヲ見ルベシ是數所ノ裁判所ノ決議セシ所ナリ(二)

註(一)ダローズ亡産ノ部其シヨリヴォー、エー、フォースタンヘリー刑法論第三卷二百六十四枚ヲ見ルヘシ然レトモパルドシエ氏ハ通常倒産ニ共犯アリト為スガ如シ其著書千三百八枚ヲ見ルヘシ(二)千八百四十四年十月十日訴訟局ノ決議英千八百四十四年八月三十日巴

里裁判院ノ決議ヲ見ルベシ

第五百八十四條○通常倒産人ハ一月以上二年以下ノ禁錮ノ刑ニ處ス(刑法第四百二條)

通常倒産ハ檢察官之ヲ訴ルヲ得ルノミナラス管財人ハ債主ノ總代トシテ輕罪裁判所ニ出訴ヲ為シ又ハ^句引ヲ請願スルヲ得債主モ亦其權利ヲ有ス(書式第二百二十四号及ヒ第二百二十二号ヲ見ルベシ)

第五百七條及ヒ第五百八條○如何ナル場合タリトモ檢察官訴ヲ為スノ費用ハ官費トス又管財人訴ヲ為スノ費用ハ處刑ノ場合ニ限り官費ト為スヘシ

然レトモ法律ハ亡産人和約ヲ得テ之ヲ施行セシ後再ヒ身代ヲ善クセシトキハ右ノ費用ヲ官ニ償シムルヲ得ルト定タリ

管財人ノ訴訟入費ハ亡産人無罪ト決シタルトキハ亡産資金中ヨリ拂フヘキ者トス

第五百八十九條○前條末項ノ場合ニ於テ亡産資金ヲ以テ訴訟入費ヲ支辨スルカ故ニ管財人ハ現在債主總負ノ過半數ノ承諾ヲ得ルニアラ

サレハ亡産人通常ノ倒産ヲ為セト訴フヘカ
ラス又民事原告人トナルヲ得ス書式第二百
二十三号ヲ見ルヘシ
第五百九十條○債主訴ヲ為スノ入費ハ亡産人
處刑ヲ受クレハ官費トシ無罪ニ決スレハ其債
主ノ擔當トナス

第二章 詐偽倒産

第五百九十一條○亡産人左ニ列記スル三ノ場
合ニ在テハ詐偽倒産タルヘシ

第一。簿冊欠漏シテ亡産人詐偽ナキヲ証明シ
得サルトキ

第二。貸金ノ幾分ヲ避ケ又ハ匿シタルトキ

第三。負債額ヲ偽リ過分ニ申立タルトキ

註○詐偽倒産ノ犯人又ハ從犯タルノ宣告ヲ
為スニハ陪審人本人ヲ高人ナリト認定スル
トヲ要ス然ラサレハ其宣告ハ無効ニ扱スベ
シ(千八百三十年九月十六日大審院ノ決議)然
レトモ裁判所ハ陪審人ニ向テ被告人ハ亡産
高人ナルヤヲ特ニ質問スルヲ要セサルノ
ミナラス質問スルヲ許サ、ルガ如シ何ト

ナレハ商人タルノ性質ハ刑ヲ重クスヘキ事柄ニアラスニテ刑ノ成立ツ事件ノ部分タルニ過キサレハ倒産ノ主タル事實ニ付テノ問題中ニ含蓄スレハナリ(千八百四十六年三月二十日訴訟局ノ決議)又大審院ノ例規ニ據レハ詐偽倒産ノ問題ヲ陪審人ニ為スニハ左ノ文章ヲ用フルヲ常トス「某ハ商人トシテ亡産ヲ為シ其貸額ノ一部分ヲ匿クセシコトニ付テ有罪ナルヤ」(千八百五十一年五月七日ノ決議)

詐偽倒産人ハ有期ノ徒刑ニ處ス(刑法第四百二條)

手形賣買世話人及ヒ商業世話人亡産ヲ為シタルトキハ同上ノ刑ヲ受クベシ若シ詐偽倒産ノ罪ヲ犯シタル片ハ無期ノ徒刑ニ處セラルベシ

刑法第四百四條

詐偽倒産ノ場合ニ在テハ之ヲ訴ルノ權ハ檢察官ニ屬ス亡産人ノ債主全負又ハ各自ニテ訴ルヲ得ス然レトモ管財人又ハ債主一負若クハ全負民事原告人トナルヲ得ヘシ

第五百九十二條。詐偽倒産ノ罪ヲ訴ル入費ハ如何ナル場合ニテモ管財人民事原告人トナル場合ニテモ亡産資金中ヨリ支辨セシムヘカラス必ス官費タルベシ

然レトモ債主一負又ハ數負ニテ自己ニ民事原告人トナリタル片若シ被告人無罪ニ決スレハ原告人其費用ヲ擔當スヘキ者トス

第三章 亡産人ニ非サル者亡産ノ事ニ付テ犯シタル重罪及ヒ輕罪

第五百九十三條。亡産人ノ為メニ其動産若ク

ハ不動産ノ全部又ハ幾分ヲ匿シ又ハ有テ知テ無ト述ル者ト認定セラル、者アルヘシ是等ノ者ハ法律ニ於テ詐偽倒産人ト同様ノ刑ニ處セラレヘシ

論者一般ニ曰第五百九十三條ノ規則ハ共犯外ニアル者ニ付テ施行スルヲアルヘシ例ヘハ亡産人ノ利益ノ為メニ其財産ヲ隠蔽セシ者之ヲ亡産人ニ知ラセサリシニヨリ亡産人ノ共犯ニ非ラスト雖モ同條ニ據テ罰セラルベシ唯隠蔽ノ目的亡産人ノ利益ニアルヲ以テ足レリトス

一 從犯ノ事ハ立法者一般ノ從犯規則ニ讓レリ
刑法第六十條ヲ見ルヘシ

註(一)レ一子一六百十五枚口ヌ一アル第千卷
四百四十五枚ベ一カレ又亡産論七十五枚及ヒ
千八百四十年五月二日英千八百四十三年六
月三日大審院ノ決議ヲ見ルヘシ

然レトモ商法第五百九十三條ハ刑法第六十
條ニ關係アリト雖モ第六十二條ニハ關係セ
ス而テ亡産人ノ物品隱匿ノ處分ハ新規則ニ
據ラシム(千八百五十二年三月十八日大審院

ノ決議

自己又ハ他人ノ名ヲ以テ亡産資金ニ貸金アリ
ト詐偽ヲ申立テ其誓言ヲ為ス者ハ詐偽倒産ノ
刑ニ處セラルベシ又他人ノ名ヲ借り又ハ偽名
ヲ以テ高賣ヲ為ス者詐偽倒産ニ係ル事實アル
トキハ同様ノ刑ニ處セラルベシ

第五百九十四條○亡産人ノ配偶者及ヒ本系ノ
卑屬尊屬并ニ姻屬ノ卑屬尊屬亡産人ノ動産ヲ
匿シ又ハ盜タル者ハ竊盜ノ罪ニ處セラルベシ
註○若シ封印ヲ解キ又ハ家器ヲ破リテ盜タ